

履修の手引

令和 4 年度

2022

徳島大学大学院
創成科学研究科
博士後期課程

はじめに

この履修の手引は、徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻（博士後期課程）に入学されたみなさんが、修了に必要な履修の方法などを知るためのもので、以下の項目について記載しています。

- 1 創成科学研究科での教育の理念・目標と特色
- 2 創成科学研究科・各学位プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー
- 3 研究指導クラスターについての説明
- 4 諸手続に関する事項
- 5 人権・教育相談のための体制

大学院は、専門基礎能力を基に、自主的な学習によって、専門性を一層向上すると同時に、高度専門職業人・研究者・起業家人材としての倫理や幅広い教養に裏打ちされた人間性の涵養に努める場です。

みなさんは、豊かな人格と教養を身につけ、専門知識による課題探求力・表現力を養い、社会の変化に柔軟に対応できる自立した応用力と創造力を身につけ、「進取の気風」をもった高度専門職業人・研究者・起業家人材となるよう努力してください。実践的な行動力をもって地域社会や国際社会に貢献できるみなさんを社会は期待しています。

《目次》

はじめに

創成科学研究科での教育の理念・目標と特色	1
創成科学研究科創成科学専攻の養成する人材像及びディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー	2
○各学位プログラム毎の養成する人材像及びディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー	5
○研究指導クラスター	12
修了要件及び履修方法	17
○電気電子物理科学系プログラム	
文部科学省卓越大学院プログラム	
早稲田大学卓越大学院「パワー・エネルギー・プロフェッショナル（PEP）人材育成プログラム」	19
学生への連絡及び諸手続について	20
セクシュアル・ハラスメント，アカデミック・ハラスメントの発生防止のために	26
学位審査等学事日程	28
規則関係	
徳島大学大学院学則	29
徳島大学学位規則	29
徳島大学大学院創成科学研究科学学位規則実施細則	29
徳島大学大学院創成科学研究科規則	30
徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻履修細則	35
徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程学位論文審査基準	36
徳島大学大学院創成科学研究科の博士学位審査に関する内規	38
徳島大学大学院創成科学研究科学位論文提出基準	41
徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程において優れた研究業績を上げた者の期間短縮修了に関する要項	42
徳島大学大学院創成科学研究科における長期にわたる教育課程の履修に関する規則	43
徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻における長期にわたる教育課程の履修に関する細則	44
徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻学生の他研究科の授業科目履修に関する実施細則	45
徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻における成績評価等の申立てに関する申合せ	46
気象警報が発表された場合の授業の休講措置に関する申し合わせ	47
徳島大学休学許可の基準に関する申し合わせ	47
付 録	
教員の一覧	49
講義室等配置図	53
履修登録届	

創成科学研究科での教育の理念・目標と特色

高度化・多様化する社会や学生のニーズに的確に応えていくため、本研究科が擁する幅広い学問分野の教員が組織の枠を超えて協働し、学位プログラムを展開させる教育プログラムの構築が不可欠です。そこで、創成科学研究科博士後期課程では、既に設置した本研究科博士前期課程（修士課程）の4つの専攻を1つの専攻に統合し、「創成科学研究科・創成科学専攻」という名称の1研究科1専攻体制とすることにより、博士前期課程の研究の「実践・実行」という立場から、博士後期課程ということ強く意識した研究の「主導・牽引」という立場に比重を移し、「科学・技術・産業・社会の諸領域において新たなイノベーションを創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材」を養成する体制を構築しています。

具体的には、新たな「学位プログラム」という教育システムを中心とし、更に、「学位プログラム」を横断する形で複数の専門基盤分野（異なる学位プログラム）の教員を再配置する「研究指導クラスター」という指導体制を導入します。この仕組みの特徴は、「学位プログラム」という縦系列の指導体制に加えて、「研究指導クラスター」という指導体制により、分野横断的に研究指導を受ける場を学生に提供する点にあります。

「学位プログラム」は、基盤となる専門分野（学問体系）の高度な知識と研究能力を修得するための縦の系列、「研究指導クラスター」は、自身の研究の深化の予備段階としての多角的視点を形成させるための横の系列であり、このような縦横の教育課程（研究指導体制）を編成することにより、それぞれの専門基盤・基幹技術を強化させ、同時に多角的な視野に基づいた幅広い知見と研究能力、及び展開力を有する人材養成を行います。

創成科学専攻博士後期課程における研究指導の基本理念は、「新たな知の創造と活用を主導し、今後の社会を牽引する高度な“知のプロフェッショナル”ともいうべき社会に貢献できる人材を養成すること」です。そのためには自身の専門分野の立ち位置を明確にする必要があり、その方法論として、自身の専門分野以外の学問体系や研究のスタンス、ものの見方を修得させることにより、自身の研究、あるいは研究分野の立ち位置をより一層明確にし、さらなる深化が達成できるようにします。

先に設置した大学院創成科学研究科（博士前期課程）「地域創成専攻」、「臨床心理学専攻」、「理工学専攻」、「生物資源学専攻」から接続する博士課程を1つの専攻として設置し、博士前期課程で学修した課題研究領域をさらに深化・発展させて学修・研究させる教育体制、すなわち「専門基盤分野・他基盤分野横断型教育・研究指導体制」を構築することにより、これまで以上に掘り下げつつ「社会実装」ということを強く意識した研究とそれによる有為な人材養成を目指します。

そのためには、基盤となる専門分野（学問体系）の高度な知識と研究能力の修得に加え、自身の研究のさらなる深化のために複合的かつ多角的視点を持った人材の育成が今まで以上に容易、かつ、効率的に行えるように、1専攻（創成科学専攻）7学位プログラムの柔軟な教育組織として構成しています。

創成科学研究科創成科学専攻の養成する人材像及び ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー

養成する人材像

中長期に亘る社会からの本学への要請を踏まえ、それぞれの専門基盤・基幹技術、並びに幅広い知見と研究能力を有し、やがてはそれぞれの分野で指導的役割を負える人材育成を行う。それによって、次世代の課題探求とその解決能力を有するのみならず、国際環境の変化にも柔軟、かつ自律的に対応できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

創成科学専攻博士後期課程では、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

分野横断的な多角的視点と高度な専門知識・技能を身につけ、専門基盤分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。

2. 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力

高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、専門基盤分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献能力

問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。

カリキュラム・ポリシー

創成科学専攻博士後期課程では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、基盤となる専門分野の高度な知識を修得する仕組みを縦串とする。それに加えて、自身の研究の深化のために分野横断的な多角的視点を形成させる「研究指導クラスター」を教育の横串として機能させる。このような縦横のしくみを用い、以下の方針で教育課程を編成する。

1. 教育課程の編成と教育方法

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

基盤となる専門分野に関する高度の専門的知識と能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した他の基盤分野の視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視野から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる能力が修得できる機会を提供する。

(2) 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、独自の発想力や豊かな創造力、広範な応用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。

(3) 国際的発信力及び社会貢献能力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し、専門基盤分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性、厳格性及び公平性を確保するため、学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、博士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。

創成科学研究科学学位プログラムとは

学位プログラムは、「基盤となる専門分野の高度な知識と研究能力を修得する仕組み」です。基盤となる学問体系であり、先進的である一方で、伝統的かつ普遍的な内容に基づいた教育体制です。基盤となる専門分野とは、普遍的な課題を解決する能力を養う基礎となる学問体系であり、これを学位プログラム編成の単位とし、教育の質保証はそこで行います。

7つの学位プログラムに、それぞれの基盤となる専門分野の高度な知識を修得させるための「学位プログラム特別研究(社会基盤システム特別研究, 化学生命工学系特別研究, 機械科学系特別研究, 電気電子物理科学系特別研究, 知能情報・数理科学系特別研究, 生物資源学系特別研究, 光科学系特別研究)」という研究指導科目をそれぞれ配置しています。これらの「学位プログラム特別研究」は、学位取得のために必要となる「原著論文」、あるいは「作品」を完成させるために必要となる一連の全ての研究活動であり、各学位プログラムにおいては、それぞれの基盤となる専門分野の高度な知識や研究手法、論理的思考方法、成果の国際的発信手法を修得させた上で、最終的に学位授与の審査を行います。このような学位プログラムの存在は、大学・研究機関以外の採用担当者にも学生の主たる専門基盤分野を容易に把握させることができ、民間企業や行政機関等での就業を考えている学生の就職活動や将来の進路に対して大いに配慮したものであり、教員はいずれかの学位プログラムの一つに所属することになります。

本専攻には、次の7つの学位プログラムを設置しています。いずれも、地域や社会からの要望や要請に基づき、それらに対応できるような人材を養成するために、現状の博士後期課程のコースを特化、あるいは連携させて構成しています。なお、どの学位プログラムにおいても、専門性を獲得するとともに、研究テーマへの取り組みを通じて多角的・多面的視点及び異なる基盤分野の専門家と積極的に協働して問題を解決する能力を身に付けさせます。学生が所属する学位プログラム内の主研究指導教員は、「研究指導クラスター」教員と連携しながら学生自身の研究分野を拡大・深化させるための指導を行います。

■社会基盤システムプログラム

本プログラムは、防災科学分野、地域環境分野、構造・材料分野、地域創成分野、臨床心理学分野の構成の下に、現代社会の基幹を成す科学技術分野である社会基盤学、社会科学、あるいは人間科学の深化と、文理横断的な視野を含めた広い視野に立って他分野との融合化をさらに発展させることができる研究者や技術者を養成することを通して、次世代の持続可能社会に貢献することを目的とする。

文理横断的な専門知識・技能をふまえ、地域再生、防災・減災、インフラ整備、環境問題等の社会の諸課題の解決に取り組むとともに、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境を創造できる高度専門職業人・研究者を養成する。

■化学生命工学系プログラム

本プログラムは、物質合成化学分野、物質機能化学分野、化学プロセス工学分野、生命科学分野の構成の下に、基礎化学から応用化学、化学工学、生命工学までの幅広い化学技術に関する専門性の深化と、合成開発、物質機能創造、あるいはプロセス開発に関する知識・技術を基礎として広い視野に立った他分野との融合により、課題の探求・解決能力を有する技術者や研究者の育成を通して、人類生活の利便性、環境と物質の調和、資源やエネルギーの開発、病気の診断・予防・治療に貢献することを目的とする。

合成化学、物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、化学工学、生命工学、生命科学などを基盤としつつ、より高い専門性と複合的な視点に基づいた課題解決が求められる化成品、医薬品、食品の製造や開発研究に携わる技術者、環境保護や保健衛生に関わる高度専門家、バイオベンチャーや公的機関の高度専門技術者及び研究者を養成する。

■機械科学系プログラム

本プログラムは、材料科学分野、エネルギーシステム分野、知能機械学分野、生産工学分野の構成の下に、最新の高度テクノロジー社会の根幹を成す科学技術分野である機械工学の専門性の深化と、広い視野に立って他分野との融合により、課題の探求・解決能力を有する高度な「ものづくり」を担う技術者や研究者の育成を通して、安全・安心・快適かつ次世代の持続可能な社会の形成に貢献することを目的とする。

機械工学を基盤としつつ、より高い専門性と複合的な視点に基づいた課題解決が求められる高機能機械・構造用材料の開発技術、熱や流体エネルギーの有効利用技術、制御システム開発技術、生体医工学関連技術、高度設計・生産・加工技術開発、先端計測技術開発などに貢献できる創造性を持ち、高い研究能力を有する人材および高度な知識と技術開発能力を有する人材を養成する。

■電気電子物理科学系プログラム

本プログラムは、物性デバイス分野、電気エネルギー分野、知能電子回路分野、電気電子システム分野、及び関連する物理科学分野で構成され、最新の高度テクノロジー社会の根幹を成す科学技術分野である電気電子工学や電気電子工学に関連する物理科学の専門性の深化と、広い視野に立って他分野との融合により、課題の探求・解決能力を有する高度な「ものづくり」を担う技術者や研究者の育成を通して、安全・安心・快適かつ次世代の持続可能な社会の形成に貢献することを目的とする。

電気電子工学およびそれに関連する物理科学を基盤としつつ、より高い専門性と複合的な視点に基づいた課題解決が求められる次世代の IoT 社会や先端物理科学を支える電子デバイス開発技術、電気エネルギーの発生と有効利用技術、通信計測制御システム開発技術、先端計測技術とそれらを支えるエレクトロニクス回路技術、並びに電子デバイスなどの材料開発技術に貢献できる創造性をもち高い研究能力を有する人材および高度な知識と技術開発能力を有する人材を養成する。

■知能情報・数理科学系プログラム

本プログラムは、現代社会の基幹を成す科学技術分野である人工知能やデータサイエンス等の専門性の深化と、広い視野に立って他分野と融合化することができる ICT, IoT 関連の技術の開発及びそれを担う技術者や研究者の育成を通して、安全・安心・快適な社会の形成に貢献することを目的とする。

情報工学、知能工学、それに関連する数理科学分野で構成され、専門性との関係を意識しながら、専攻を横断する広い視野を持ち、組織的・系統的なハードウェアとソフトウェア系を対象とした情報工学、知能工学や、それらに関連する諸問題を解決して発展させるための工学系応用数学について体系的な知識と専門的な技術を持つとともに、最先端の専門的知識・技術を活用し、専門性と創造性の視点を生かしながら課題解決力や研究開発力を有する高度専門技術者及び研究者を養成する。

■生物資源学系プログラム

本プログラムは、農林畜水産業を地方創生の原動力として、食糧問題、農林畜水産業問題の解決に貢献する技術の開発及びそれを担う技術者や研究者の育成を通して、農林畜水産業分野の地域創生に貢献することを目的とする。

農林畜水産物や未利用生物資源の特性を深く理解し、その利点を活用した新しい機能性の研究や開発、IoT や AI を活用した HACCP 適合性の食品加工システムや生産管理システム技術の開発、ゲノム編集等の最新の育種技術や光デバイスの開発、地域資源としての保全と利活用等を行い、生物資源を開拓する高度専門技術者及び研究者を養成する。

■光科学系プログラム

本プログラムは、光機能材料分野、光情報システム分野、光計測分野の構成の下に、物理学、電気電子工学、情報工学、知能工学、機械工学、化学などにわたる学際的な科学技術分野である光科学に関する専門性の深化と、広い視野に立って他分野との融合により、課題の探求・解決能力を有する高度な「ものづくり」を担う技術者や研究者の育成を通して、安全・安心・快適かつ次世代の持続可能な社会の形成に貢献することを目的とする。

光科学、光工学を基盤としつつ、より高い専門性と複合的な視点に基づいた課題解決が求められる最先端のナノ光学、光機能性材料、フォトニックネットワーク、立体映像、高時空間分解能イメージング、画像診断技術などに貢献できる創造性を持ち、高い研究能力を有する人材および高度な知識と技術開発能力を有する人材を養成する。

○ 各学位プログラム毎の養成する人材像及びディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

社会基盤システムプログラム

●養成する人材像

社会基盤システムプログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、社会基盤分野や社会・人間科学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

●ディプロマ・ポリシー

社会基盤システムプログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

社会基盤学，社会科学，人間科学に関する高度な専門知識，論理的思考力，製品開発等への応用力を持つとともに，関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち，社会基盤学，社会科学，人間科学分野において明確な問題意識を持ちつつ，自立して研究を遂行し，社会基盤学，社会科学，人間科学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力，それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。

2. 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力

高い倫理観と強固な責任感を有するとともに，社会基盤学，社会科学，人間科学分野及びその関連分野を総合的に理解し，多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により，実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献能力

問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し，国内外に発信できるコミュニケーション能力，豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力，及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。

●カリキュラム・ポリシー

社会基盤システムプログラムでは，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成する。

1. 教育課程の編成と教育方法

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

社会基盤や社会・人間科学分野に関する深い知識に根ざした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目，及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し，学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え，多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力，持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力，さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。

(2) 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力

博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し，高い倫理観と強固な責任感を有するとともに，社会基盤学，社会科学，人間科学分野及びその関連分野を総合的に理解し，多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力，広範な応用力及び展開力をもって，自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。

(3) 国際的発信力及び社会貢献能力

博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し，社会基盤学，社会科学，人間科学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し，国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに，豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力，及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて，自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性，厳格性及び公平性を確保するため，学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。

●授与される学位

「博士（工学）」または「博士（学術）」

化学生命工学系プログラム

●養成する人材像

化学生命工学系プログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、化学工学や生命工学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

●ディプロマ・ポリシー

化学生命工学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

物質創製、生物資源利用の基礎としての化学、生命科学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、化学、生命科学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、化学的、生物学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。

2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力

高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、化学、生命科学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献能力

問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。

●カリキュラム・ポリシー

化学生命工学系プログラムでは、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成する。

1. 教育課程の編成と教育方法

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

化学と生命科学分野に関する深い知識に根ざした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力、持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力、さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。

(2) 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、化学、生命科学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力、広範な応用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。

(3) 国際的発信力及び社会貢献能力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し、化学、生命科学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性、厳格性及び公平性を確保するため、学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、博士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。

●授与される学位

「博士（工学）」

機械科学系プログラム

●養成する人材像

機械科学系プログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、機械工学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

●ディプロマ・ポリシー

機械科学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

機械工学に関する高度な専門知識，論理的思考力，製品開発等への応用力を持つとともに，関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち，機械工学分野において明確な問題意識を持ちつつ，自立して研究を遂行し，機械工学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力，それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。

2. 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力

高い倫理観と強固な責任感を有するとともに，機械工学分野及びその関連分野を総合的に理解し，多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により，実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献能力

問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し，国内外に発信できるコミュニケーション能力，豊かで健全かつ，持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力，及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。

●カリキュラム・ポリシー

機械科学系プログラムでは，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成する。

1. 教育課程の編成と教育方法

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

機械工学分野に関する深い知識に根ざした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目，及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し，学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え，多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力，持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力，さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。

(2) 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し，高い倫理観と強固な責任感を有するとともに，機械工学分野及びその関連分野を総合的に理解し，多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力，広範な応用力及び展開力をもって，自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。

(3) 国際的発信力及び社会貢献能力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し，機械工学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し，国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに，豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力，及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて，自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性，厳格性及び公平性を確保するため，学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。

●授与される学位

「博士（工学）」

電気電子物理科学系プログラム

●養成する人材像

電気電子物理科学系プログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、電気電子工学や物理学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

●ディプロマ・ポリシー

電気電子物理科学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

電気電子工学、物理学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、電気電子工学、物理学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、電気電子工学、物理学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。

2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力

高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、電気電子工学、物理学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献能力

問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。

●カリキュラム・ポリシー

電気電子物理科学系プログラムでは、学位授与の方針で示す能力を持った人材を養成するために、以下の方針で教育課程を編成する。

1. 教育課程の編成と教育方法

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

電気電子工学および物理学分野に関する深い知識に根ざした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力、持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力、さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。

(2) 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、電気電子工学、物理学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力、広範な応用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。

(3) 国際的発信力及び社会貢献能力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し、電気電子工学、物理学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性、厳格性及び公平性を確保するため、学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、博士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。

●授与される学位

「博士（工学）」

●養成する人材像

知能情報・数理科学系プログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、知能情報工学や数理科学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

●ディプロマ・ポリシー

知能情報・数理科学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

情報工学，知能工学，数理科学に関する高度な専門知識，論理的思考力，製品開発等への応用力を持つとともに，関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち，情報工学，知能工学，数理科学分野において明確な問題意識を持ちつつ，自立して研究を遂行し，情報工学的，知能工学的，数理科学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力，それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。

2. 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力

高い倫理観と強固な責任感を有するとともに，情報工学，知能工学，数理科学及びその関連分野を総合的に理解し，多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により，実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献能力

問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し，国内外に発信できるコミュニケーション能力，豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力，及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。

●カリキュラム・ポリシー

知能情報・数理科学系プログラムでは，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成する。

1. 教育課程の編成と教育方法

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

基盤となる情報工学・知能工学・数理科学分野に関する深い知識に根ざした論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目，及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目によって教育課程を編成し，学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え，多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力，持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力，さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。

(2) 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し，高い倫理観と強固な責任感を有するとともに，情報工学，知能工学，数理科学分野及びその関連分野を総合的に理解し，多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力，広範な応用力及び展開力をもって，自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。

(3) 国際的発信力及び社会貢献能力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し，情報工学，知能工学，数理科学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し，国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに，豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力，及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて，自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性，厳格性及び公平性を確保するため，学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。

●授与される学位

「博士（工学）」

生物資源学系プログラム

●養成する人材像

生物資源学系プログラムでは、中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、農林畜水産業を地方創生の原動力として、我が国の持続的発展、国際競争力の向上、人類社会への貢献に資する高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

●ディプロマ・ポリシー

生物資源学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

生物資源学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、生物資源学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、生物資源学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。

2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力

高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、生物資源学及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献能力

問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。

●カリキュラム・ポリシー

生物資源学系プログラムでは、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成する。

1. 教育課程の編成と教育方法

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

生物資源学分野に関する深い知識に根ざした論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力、持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力、さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。

(2) 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、生物資源学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力、広範な応用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。

(3) 国際的発信力及び社会貢献能力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し、生物資源学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性、厳格性及び公平性を確保するため、学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、博士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。

●授与される学位

「博士（農学）」

光科学系プログラム

●養成する人材像

光科学系プログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、光科学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

●ディプロマ・ポリシー

光科学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

光科学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、光科学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、光科学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。

2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力

高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、光科学及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献能力

問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。

●カリキュラム・ポリシー

光科学系プログラムでは、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成する。

1. 教育課程の編成と教育方法

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

光科学分野に関する深い知識に根ざした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力、持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力、さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。

(2) 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、光科学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力、広範な応用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。

(3) 国際的発信力及び社会貢献能力

博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成し、光科学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性、厳格性及び公平性を確保するため、学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、博士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。

●授与される学位

「博士（工学）」

○ 研究指導クラスター

「研究指導クラスター」は、博士前期課程で新たに導入した「教育クラスター」を継承し、さらに発展させたものです。博士前期課程の場合は、その軸足が「教育」にあったのに対し、博士後期課程においては軸足を「研究」（研究指導体制）とすることが大きな相違点です。「研究指導クラスター」は、広義の意味で多角的な視野を養う場であるとも定義でき、それは時代の要請に応じた価値の創造や課題解決への糸口を見つけるための場であるとも言えることもできます。

「研究指導クラスター」は、本専攻が定める研究指導クラスターの分類・内容を基に 18 種類のクラスターを設置しています。これらのクラスターは設置の背景でも述べた地域の課題や SDGs に基づいて構成されています。

各研究指導クラスター内は、概念的には類似している分野、あるいは学際分野に関与する教員を適度な規模のグループとして構成されており、基盤となる 7 つの「学位プログラム」を横断する形で複数の専門基盤分野（異なる学位プログラム）の教員が再配置されています。すなわち、本専攻の教育課程の中に、研究指導クラスターによる領域横断的な指導体制を体系的に組み込み、これを必修科目となる「創成科学特別演習」及び「創成科学特別研究」において、本専攻研究指導教員が副指導教員となり専門基盤分野をまたがって指導を行う仕組みとなっています。このように、専門基盤分野の高度な知識を修得させるための「学位プログラム」に加えて、研究に基づく分野横断型研究指導体制となる「研究指導クラスター」を今回導入することで、各専任教員には 2 つの役割が与えられています。1 つは各学位プログラムの専門教育であり、もう 1 つは「研究指導クラスター」教員として、学生自身の研究テーマに対して多角的視点を形成させる指導を行うところが大きな特長となっています。

このようにして、1 研究科 1 専攻の目的でもある組織の枠を超えた専門基盤分野横断的な教育課程・指導体制を編成しています。

研究とは、それぞれの指導教員の下で展開されるべきものですが、自身の研究を深化させるためには、自身の研究分野やテーマの立ち位置を明確に認識する必要があることも事実です。これらに関する知識の体系、あるいはものの考え方の修得は、これまでは学会や研究会などに参加することによって、ある程度達成できましたが、「研究指導クラスター」とは、それを組織的・体系的に運用するものです。このように、「研究指導クラスター」は、多角的な視点と研究の展開力を養成するための研究指導体制であり、学生の研究活動を多角的に幅広く強力にバックアップする場となります。また、「研究指導クラスター」は既存の研究交流委員会において社会情勢の変化に応じて適宜枠組みを見直し（2～3 年毎）、社会の要請に柔軟に対応できる体制となっています。

なお、「研究指導クラスター」を直接的に機能させる科目として、以下の 2 つの研究科共通必修科目を設置し指導を行います。テーマの選定など各科目の運営方法や研究指導教員の配置の方法などは以下のとおりです。

「創成科学特別演習」必修 2 単位：1 年後期～2 年前期開講

- ・目的： 学生の専門基盤分野とは異なる基盤分野の視点から自らの研究テーマを多角的に見る能力を修得する。
- ・概要： 本科目は、「多角的視野を養うための「創成科学特別研究」の導入教育」という位置づけとし、7 つの学位プログラムに配置する各「学位プログラム特別研究」の研究指導内容を効果的に補強する科目となる。

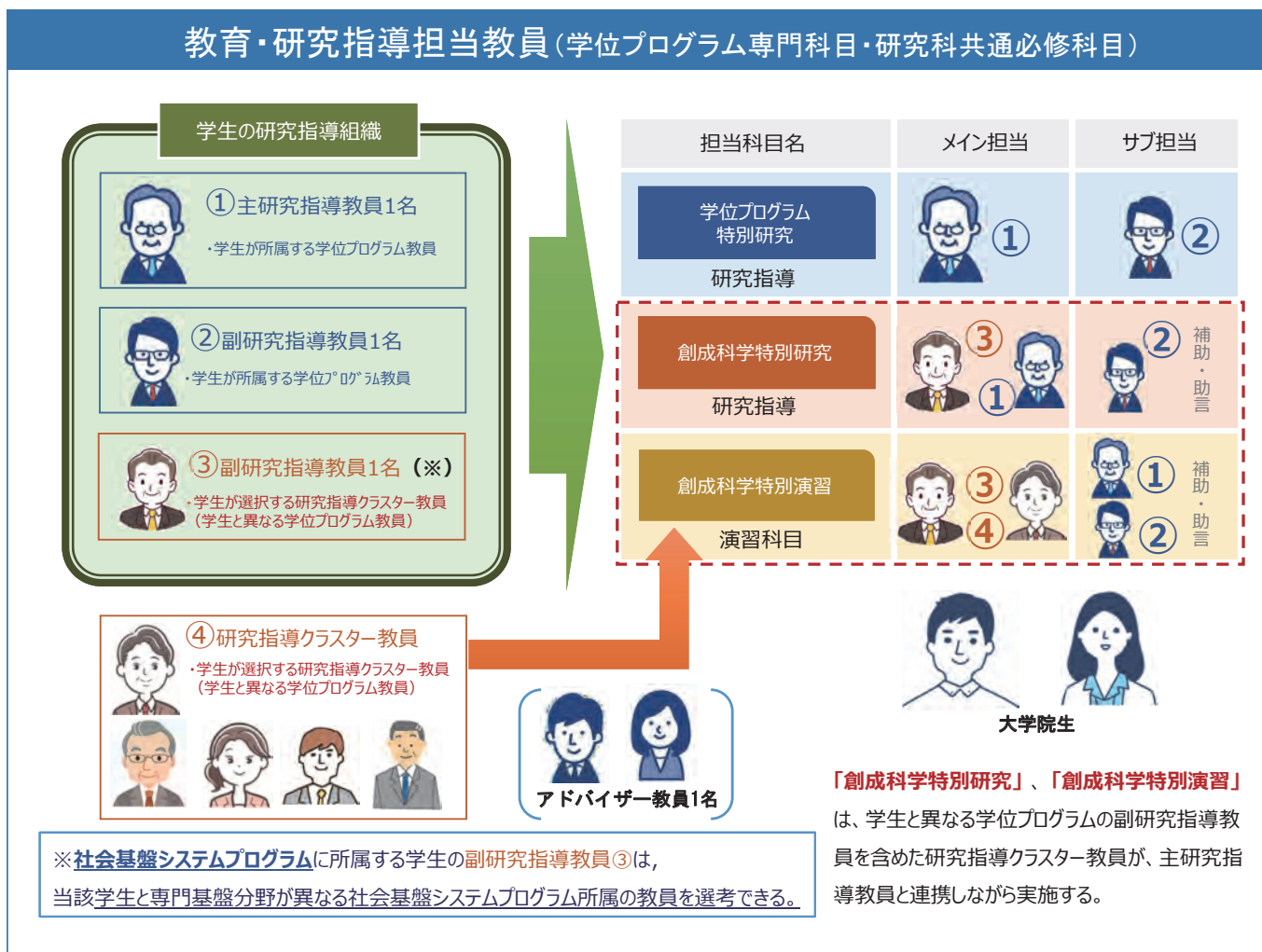
本演習では、学生の研究テーマに対して異なる専門基盤分野となる研究指導クラスター教員（学位プログラム外教員）3 名が担当教員となる。学生は担当教員に対して自らの研究の概要を説明し、本演習の課題内容を設定する。演習では、教員自身の研究分野の紹介や参考となる研究論文、参考著書、技術資料等を提示し、輪講指導、文献読解指導等を行いながら、研究室内や他のグループとの発表・討論を実施し、それらを概説として取り纏める。その後、専攻全体で開催される創成科学特別演習発表会において社会実装に向けた構想も踏まえてその内容を発表し、質疑応答を通して多角的な視野を養う。なお、場合によっては本演習に引き続き行う「創成科学特別研究」において研究を行う際に必要となる実験やシミュレーションのスキルを修得する上で必要となる基礎知識も修得させる。

「創成科学特別研究」必修 2 単位：2 年後期～3 年前期開講

- ・目的： 専門基盤分野とは異なる基盤分野の視点から自らの研究テーマを多角的に見る能力を修得する。加えて社会実装に向けた基盤的な視点を養う。
- ・概要： 本科目は、先行科目の「創成科学特別演習」を踏まえ、7 つの学位プログラムに配置する各「学位プログラム特別研究」の研究指導内容を効果的に補強する科目となる。主研究指導教員（学位プログラム内教員）と副研究指導教員（研究指導クラスター教員（学生が所属する学位プログラム外教員））が連携し、学位論文の導入部分や将来展望に相当する部分の作成に向けた過程で、それぞれの役割を決めて研究指導を行う。

本科目では「創成科学特別演習」を踏まえ、自らの研究の展開、展望、社会的意義を多角的な視点から把握できる能力や社会実装に向けた基盤的な視点を養うことを目的とする。具体的には、当該学生の学位論文の導入部 (introduction) と将来展望 (future work) に相当する部分を、学生の研究テーマに対して異なる専門基盤分野となる研究指導クラスター教員 (副研究指導教員：学位プログラム外教員) が中心となり、主副指導教員 (学位プログラム内教員) と連携し、その指導の下で完成させる。その後、専攻全体で開催される創成科学特別研究発表会において発表し、質疑応答を通して多角的な視野を養うとともに評価を受け、その評価は学位論文予備審査のための参考資料となる。

なお、上記の2科目は、いずれも研究科共通必修科目として開設し「研究指導クラスター」の指導体制の枠組みの中で展開されます。各研究指導クラスターの内容等は以下のとおりです。



研究指導クラスターの分類・内容等 (クラスター名称・内容・キーワード)

■防災・危機管理

社会基盤システム、化学生命工学、機械科学、電気電子物理科学の各学位プログラムの基盤知識をもとに、防災・減災関連技術などの社会リスクに対応できる多角的な視点を養い、自らの研究テーマを俯瞰的に見つけ、それを展開させる能力を養う。

【キーワード】地震対策、津波対策、洪水対策、浸水対策、インフラ技術・政策 (橋梁、ダム、トンネル、港湾)、衛生対策など

■地域開発

社会基盤システム，化学生命工学，生物資源学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，地域の活性化に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】持続可能性社会型都市計画，地域環境政策，地域活性化，地方創成，地域文化など

■エネルギー効率化技術

機械科学，電気電子物理科学，社会基盤システム，化学生命工学，生物資源学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，持続可能型社会の実現の要である，さらなるエネルギーの効率化に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】省エネルギー技術，再生可能エネルギー技術，エネルギー回収技術，新エネルギー源など

■グリーンイノベーション

化学生命工学，電気電子物理科学，機械科学，社会基盤システム，光科学，生物資源学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，脱炭素技術など環境問題や持続可能型社会の実現に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】枯渇資源対策，環境分析，燃料電池，高効率電池，パルスパワー，プラズマ利用技術，グリーンインフラなど

■検査・分析・センシング技術

社会基盤システム，化学生命工学，機械科学，電気電子物理科学，光科学，生物資源学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，インフラ設備の高信頼化・長寿命化や環境検査・分析など，持続可能な社会の構築や新分析技術に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】非破壊検査技術，分析技術，環境検査技術，電磁波センシング，バイオセンシング，超音波センシングなど

■機能性材料

化学生命工学，電気電子物理科学，機械科学，社会基盤システムの各学位プログラムの基盤知識をもとに，持続可能な社会の構築や産業の高度化・高付加価値化を行う際の基盤となる様々な高機能材料の開発に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】ワイドバンドギャップ材料，高機能性有機分子，吸着剤，タンパク質結晶，グリーン化学，電磁性流体，バイオセンサー材料，生分解性材料，高強度材料，高耐久性材料，マイクロ・ナノデバイス用材料，耐環境材料，超伝導体，電池用材料，合成脂質材料など

■ロボティクス・人間支援

機械科学，電気電子物理科学，知能情報・数理科学，社会基盤システムの各学位プログラムの基盤知識をもとに，障害者支援機器などの人間支援機器や各種産業機器の開発など，持続可能な社会の実現に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】パワーアシストデバイス，リハビリシステム，無人航空機，マイクロデバイス，農業支援システム，知的インターフェース，顔検出など

■医療機器

電気電子物理科学，機械科学，化学生命工学，光科学，生物資源学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，医療用機器の開発に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】生体信号解析システム，治療室用情報システム，殺菌システム，ドラッグデリバリーシステムなど

■システム制御・生産イノベーション

機械科学，電気電子物理科学，知能情報・数理科学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，各種システムの制御や革新的生産手法に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】振動制御，動吸振器，エネルギー回生，最適レギュレータ，自律分散適用制御，高付加価値加工技術，超小型自律制御加工システムなど

■機能性食品開発

生物資源学，化学生命工学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，有用生物資源を活用した機能性食品開発に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】分子育種技術，発酵技術，栄養化学，慢性炎症，予防医学，健康長寿など

■高速大容量通信

知能情報・数理科学，電気電子物理科学，光科学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，beyond 5G などの高速大容量通信技術に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】 beyond 5G，モバイルネットワーク，無線マルチホップネットワーク，ネットワークアーキテクチャ，省電力光ノード，フォトニックネットワーク技術，セルラニューラルネットワーク，自律分散適応制御など

■ビッグデータ処理

知能情報・数理科学，電気電子物理科学，社会基盤システム，光科学，機械科学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，膨大なデータから必要な情報を分類・抽出し解析する手法や各種分析手法に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】 高速近傍検索アルゴリズム，自然言語処理，情報検索，辞書検索，遺伝的アルゴリズム，分散処理など

■知的画像処理

知能情報・数理科学，電気電子物理科学，光科学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，ICT 技術の核となる画像処理手法及びその応用技術に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】 自動運転，医用イメージング，コンピュータービジョン，3次元画像処理，パターン認識，画像符号化方法，動画像圧縮方法など

■数理解析

知能情報・数理科学，電気電子物理科学，機械科学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，経済・産業・健康・福祉・防災等，多様な課題の解決に数理解析手法を応用する際の多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】 非線形解析，漸近解析，代数数値解析，数値計算法，アルゴリズム論，波動現象，プラズマ現象，最適化問題など

■光計測技術

光科学，電気電子物理科学，化学生命工学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，光関連計測機器の開発や新たな物性評価手法など，光関連技術に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】 テラヘルツ応用計測，光コム，高分解分光技術，高速分光技術，ファイバーセンシング，宇宙暗黒物質探索技術，放射線計測技術，宇宙線計測技術など

■光機能材料

光科学，電気電子物理科学，化学生命工学，社会基盤システムの各学位プログラムの基盤知識をもとに，光関連材料の創成に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】 半導体光デバイス， π 電子系化合物の合成と機能化，プラズモンを利用したナノ光学，フォトニック結晶，光触媒，深紫外 LED など

■生物資源開発

生物資源学，化学生命工学，社会基盤システム，電気電子物理科学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，安全で有用性の高い生物資源の開発や安定供給を通じた持続可能かつ生産性の高い1次産業の構築に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

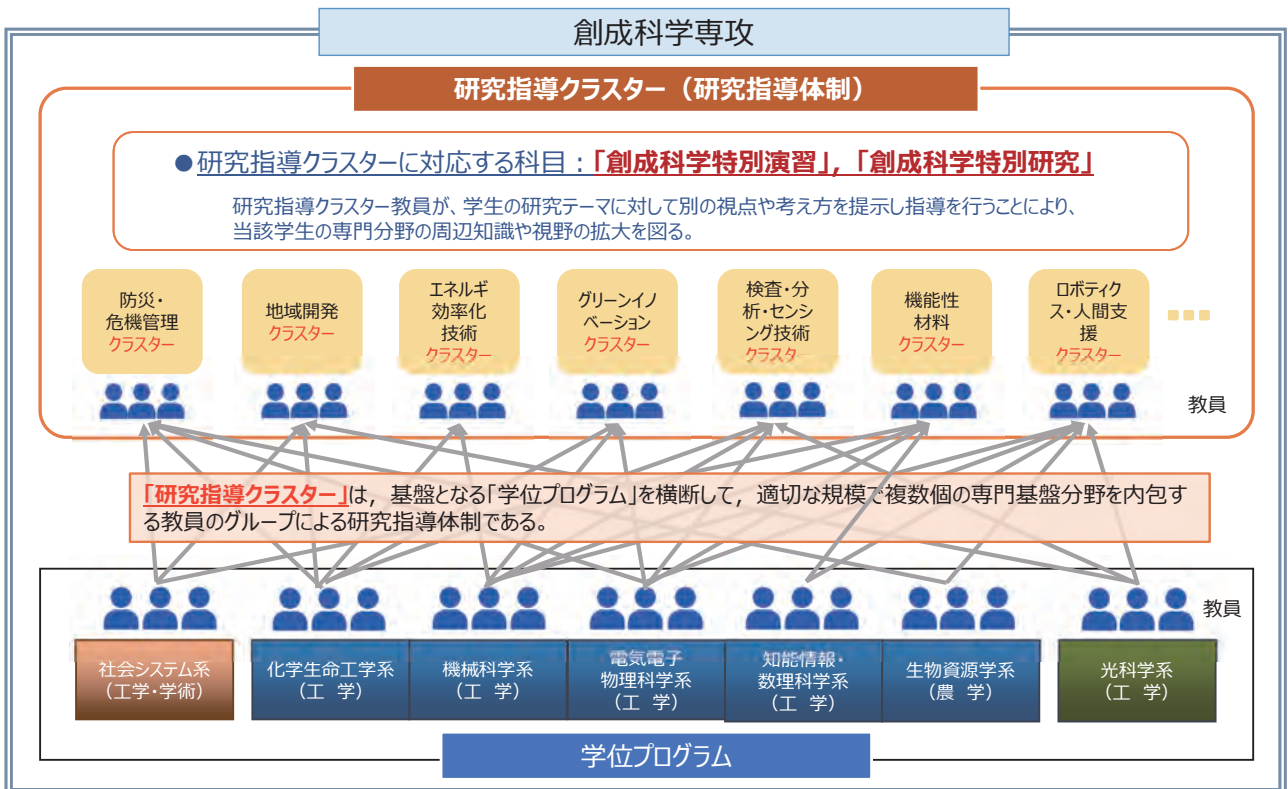
【キーワード】 ゲノム編集技術，食品成分抽出技術，無菌化技術，家畜生産システム，マイクロミニボタ，植物・微生物二次代謝産物の生合成，生分解，昆虫食，地域観光資源など

■生物工学技術・有用物質開発

化学生命工学，生物資源学，機械科学，電気電子物理科学の各学位プログラムの基盤知識をもとに，生命現象の解明を基にした革新的バイオテクノロジーと新規生理活性物質の創出に対応できる多角的な視点を養い，自らの研究テーマを俯瞰的に見つめ，それを展開させる能力を養う。

【キーワード】 生体膜工学，創薬化学，ケミカルバイオロジー，タンパク質工学，遺伝子工学，バイオマス工学，細胞工学，免疫工学，微生物学，幹細胞生物学，分子生命工学，化学工学など

研究指導クラスターの指導体制



研究に基づく分野横断型研究指導体制となる「研究指導クラスター」を導入することで、各専任教員には2つの役割が与えられる。

1つは各学位プログラムの専門教育であり、もう1つは「研究指導クラスター教員」として、学生自身の研究テーマに対して多角的視点を形成させる指導を行う。

修了要件及び履修方法

本課程に3年以上在学し、以下に指定する単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

(各学位プログラム共通)

修了要件単位数：11 単位以上

・研究科共通必修科目：4 単位

「創成科学特別演習」(2 単位)

「創成科学特別研究」(2 単位)

・研究科共通選択科目：1 単位以上

「長期インターンシップ」(2 単位)

「企業行政演習」(1 単位)

「ビジネスモデル特論」(1 単位)

「国際先端技術科学論 A」(1 単位)

「国際先端技術科学論 B」(1 単位)

・学位プログラム特別研究：6 単位 (所属する学位プログラムの特別研究を履修すること。)

「社会基盤システム特別研究」(6 単位)

「化学生命工学系特別研究」(6 単位)

「機械科学系特別研究」(6 単位)

「電気電子物理科学系特別研究」(6 単位)

「知能情報・数理科学系特別研究」(6 単位)

「生物資源学系特別研究」(6 単位)

「光科学系特別研究」(6 単位)

履修に際しては、指導教員と相談の上、履修計画に基づき履修を始める前に担当教員に連絡し、時間割を確認して履修登録を行うこと。

◀時間割▶

項目	研究科共通選択科目	研究科共通必修科目 (研究指導クラスター科目)		所属学位プログラム 専門科目
1 年次	前期 企業行政演習①			社会基盤システム特別研究⑥ 化学生命工学系特別研究⑥ 機械科学系特別研究⑥ 電気電子物理科学系特別研究⑥ 知能情報・数理科学系特別研究⑥ 生物資源学系特別研究⑥ 光科学系特別研究⑥
	後期 ビジネスモデル特論① 長期インターンシップ②	創成科学特別演習②		
2 年次	前期 国際先端技術科学特論 A① 国際先端技術科学特論 B①			
	後期		創成科学特別研究②	
3 年次	前期			
	後期			
単位数	1～2	2	2	6

修得単位数合計 11 単位以上

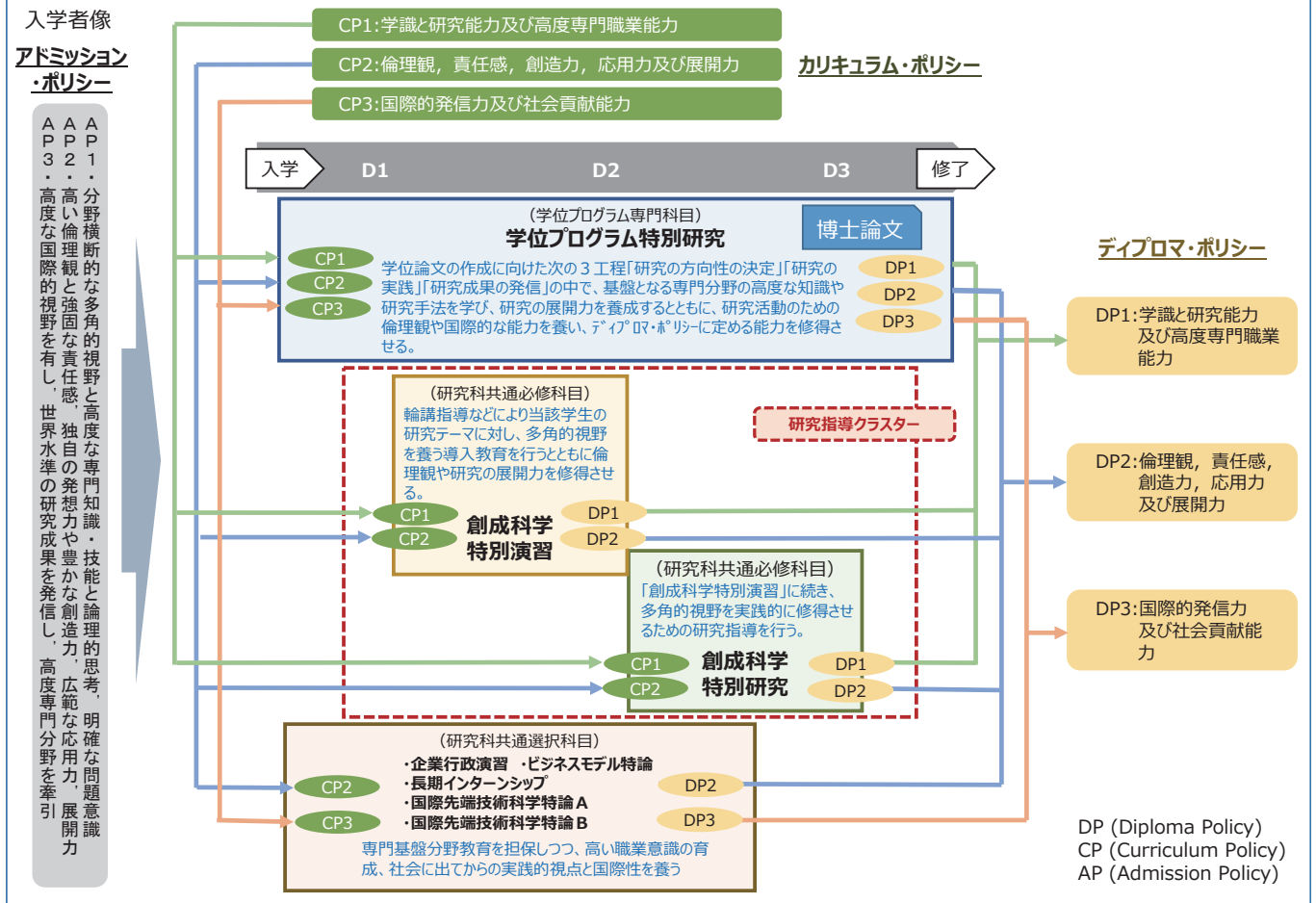
※各授業科目の「履修登録届」は、巻末に綴じ込んでいますので、切り取って必要項目を記載の上、各学位別に次の事務課学務係まで提出してください。

「学術」：総合科学部事務課学務係

「工学」：理工学部事務課学務係

「農学」：生物資源産業学部事務課学務係

創成科学専攻(博士後期課程)のカリキュラムマップ



成績評価基準

徳島大学大学院における、成績評価基準及び成績証明書等に記載する表示（以下「成績表示」という。）は次のとおりとします。なお、授業科目毎の成績評価方法、基準等はシラバスに記載します。

合否	成績表示	基準
合格	S (Outstanding)	科目の到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A (Excellent)	科目の到達目標を十分に達成している。
	B (Good)	科目の到達目標を達成している。
	C (Fair)	科目の到達目標を最低限達成している。
	認 (Qualified)	認定単位
不合格	D	科目の到達目標の全てまたはほとんどを達成していない。

* 上表の到達目標とは授業科目のシラバスに明記された到達目標を指す。

長期にわたる教育課程の履修について

職業等を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する者には、審査のうえ、長期にわたる教育課程の履修を許可する制度があります。

希望する者は、後掲の関係規則を確認し、指導教員に相談のうえ、所定の期間内に申請してください。

研究倫理に関するプログラムの受講

入学者は、e-ラーニングプログラムにより、研究倫理教育を受講しなければなりません。指導教員の指示に従い、研究倫理教育を受講してください。

研究指導計画書・報告書及び研究活動におけるチェックリスト

大学院では、研究指導方針に基づいて、研究指導計画書・報告書の作成、研究活動におけるチェックリストを提出しなければなりません。

指導教員の指導のもと、研究における計画を立て、その計画に従って研究を進めてください。

研究指導計画書・報告書は、研究指導計画（履修予定授業計画・研究計画）を主指導教員の指導に基づき、履修予定授業科目や研究における計画を立て、副指導教員及びアドバイザー教員の面談等で確認後、その計画に従って研究を進めてください。

研究活動におけるチェックリストは、研究活動の厳格化に基づき、チェックリストの作成及び提出が義務づけられています。各学期末に、各自で「研究活動におけるチェックリスト」を記載し、指導教員に確認してもらった後、学位プログラムの学位別に該当する学務係に提出してください。

研究指導計画書・報告書及び研究活動におけるチェックリストの様式及び作成方法・提出時期等の詳細は総合科学部及び理工学部並びに生物資源産業学部ホームページに掲載しています。

○ 電気電子物理科学系プログラム

文部科学省卓越大学院プログラム

早稲田大学卓越大学院「パワー・エネルギー・プロフェッショナル(PEP)人材育成プログラム」

エネルギーマテリアル分野から電力システム分野までの産業全体を幅広い視点からとらえ、未来の電力・エネルギー社会を担う高度博士人材の育成を目指して、全国の国公立 13 大学が連合し実施する学位プログラムです。(代表校：早稲田大学、連合大学：北海道大学、東北大学、福井大学、山梨大学、東京都立大学、横浜国立大学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、徳島大学、九州大学、琉球大学) 本卓越大学院プログラムは、指定された修了要件を満たすことにより「PEP 卓越大学院プログラム修了認定証」が授与されます。卓越必修科目（7 科目 10 単位）は早稲田大学に設置され、それ以外の卓越専門選択科目等は創成科学専攻で開講されます。早稲田大学で開講される卓越必修科目の履修にあたっては、オンデマンド形式、集中合宿形式、学外連携先実習の形態で実施します。なお、本学における上記卓越大学院プログラムは、本学理工学専攻博士前期課程との 5 年一貫教育プログラムであり、創成科学専攻の修了が必要です。

学生への連絡及び諸手続について

諸手続について

■事務室の窓口業務時間

【平日昼間（土・日・祝日を除く）】 8：30～17：15（12：00～13：00を除く。）

■各学部学務係での相談、申込み

1. 各種証明書（詳細は、次項の「各種証明書の発行」を参照）

和 文 (日本語)	成績証明書*, 単位修得証明書	必要とする日の 3日前 までに申請をしてください (土, 日, 祝日を除く)
	卒業見込証明書*	
	修了見込証明書*	
	他大学受験許可書	
	卒業証明書*	
	修了証明書*	
	在学証明書*	
その他の証明書	必要とする日の 7日前 までに申請をしてください。 (土, 日, 祝日を除く)	
英 文	英文証明書	(土, 日, 祝日を除く)

2. 学生の入学・卒業及び修了に関する事
3. 成績管理に関する事
4. 授業関係及び期末試験等に関する事
5. 研究生及び科目等履修生等に関する事
6. 教員免許に関する事
7. 学位に関する事
8. 講義室の管理に関する事
9. 学生の休学・復学及び退学等に関する事
10. 転専攻等に関する事

■学務部（教養教育4号館1階）での相談、申込み

1. 各種証明書
 - (a) 学校学生生徒旅客運賃割引証*
 - (b) 通学証明書
 - (c) 学生証
 - (d) 健康診断証明書
2. 各種奨学金に関する事
3. 入学料及び授業料免除に関する事
4. 学生の健康管理に関する事
5. 合宿研修及び課外活動に関する事
6. 学生の就職に関する事

*証明書自動発行機にて、発行可能な証明書です。

各種証明書の発行

各種証明書の発行申請については、所定の「証明書交付願」により必要とする日の3日前（申請日，土，日曜日及び祝日は除く。）までに、手続きをしてください。

“証明書交付願”等の必要関係書類は担当係で交付を受けてください。

1. 学生旅客運賃割引証（学割証）＜担当 学務部教育支援課＞

教育支援課及び理工学部共通講義棟にある証明書自動発行機により入手できます。学割証は、修学上の経済的負担の軽減と学校教育の振興に寄与することを目的として設けられた制度です。この制度を十分に理解し、他人に譲渡等の不正使用等を絶対しないでください。

(a) 年間 10 枚を限度として使用できます。（ただし、就職支援の一環として、1 申請につき 5 枚を限度に追加を申請できます。）

(b) 学割証の発行は、原則として次の目的により旅行する場合です。

- ・ 休暇等による帰省
- ・ 正課の教育活動（実習を含む。）
- ・ 課外活動
- ・ 就職又は進学のための受験等
- ・ 見学又は行事等への参加
- ・ 傷病の治療等
- ・ 保護者との旅行

2. 通学証明書 ＜担当 学務部教育支援課＞

- ・ 通学定期券購入のみに発行します。
- ・ 通学以外のアルバイト等には使用しないこと。

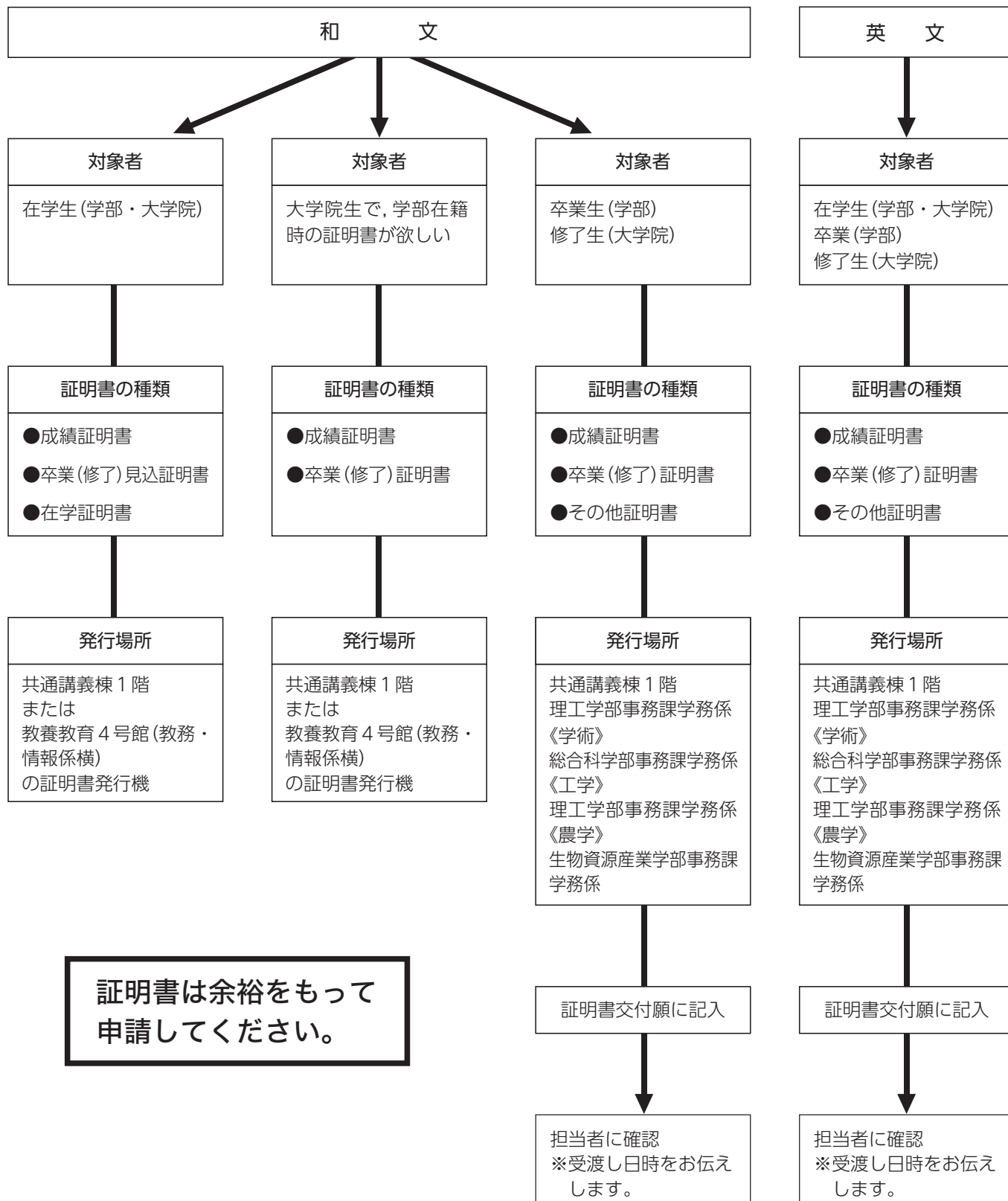
3. 在学証明書，成績証明書，修了見込証明書＜担当 各学部学務係＞

教育支援課、総合科学部 1 号館及び理工学部共通講義棟にある証明書自動発行機により入手できます。1 日につき、各 6 枚まで発行できます。

4. その他必要とする証明書

その都度、担当係へ相談ください。

【創成科学研究科】 証明書申請方法



郵送をご希望の場合は、ホームページで詳細をご確認ください。

休学、復学、退学等の手続き

休学、復学、退学等を希望する学生は、就学上いろいろな問題が生じます。

必ず事前に、必ず各自の指導教員とよく相談して、生じると考えられる問題について助言指導を受けてください。

学生→指導教員に相談→学務係で所定用紙の交付を受ける→願出用紙に学位プログラム長及び学生委員の認印→学務係へ提出（希望日の1ヶ月前までに提出すること。毎月の締切は各学部 HP や掲示板で必ず確認してください。）

異動願（休学・退学・復学）は、学則第23条～第26条（大学院学則第23条～第24条）により、専攻の教授会の議を経て、学長に許可を受ける必要があります。（教授会のスケジュールはあらかじめ決められています。）

このため原則として、異動を希望する月の1ヶ月前までに、学務係へ異動願を提出してください。

1. 休 学

(a) 疾病その他の理由により2ヶ月以上就学することができないときは、医師の診断書（疾病）又は詳細な理由書（疾病以外の理由）等を添えて学長に願い出て、その許可を受けて休学することができます。休学理由によって必要書類が異なりますので、必ず確認してください。

(b) 休学は、1年を超えることはできません。ただし、特別な理由がある者には更に引き続き1年以内の休学を許可することがあります。

(c) 休学期間は、通算して2年を超えることはできません。

(d) 休学期間は、在学期間に算入しません。

注) 休学者の授業料 休学を許可された者は、授業料について次の措置がとられます。

ア 授業料については、休学願の受理日の翌学期分から、休学期間に応じて免除されます。

（受理日の属する学期の授業料の納付は必要です。）

イ 納付済の授業料は返還されません。

2. 復 学

休学期間中にその理由が消滅した時は、学長の許可を得て復学することができます。

ただし、その理由が疾病による場合は、医師の診断書を必要とします。

3. 退 学

退学しようとする時は、退学願に詳細な理由書を添えて提出し、学長の許可を得なければなりません。退学願を提出するその学期の授業料未納者は、退学できません。

注) 退学しようとする者は、退学願を受理された日の属する期の授業料の納付は必要です。未納ですと、徳島大学学則により除籍となります。

4. 除 籍

次の各項目の一に該当した場合は、教授会の議を経て学長が除籍します。

(a) 入学料の免除を不許可とされた者又は半額免除を許可された者であって、納付すべき入学料を学長が指定する期日までに納付しない者

(b) 正当な理由がなく授業料の納付を怠り、催告しても、納付しない者

(c) 学則に定める在学期間を超えた者

(d) 学則に定める休学期間を超えた者

(e) 疾病その他の理由により成業の見込みがないと認められる者

5. 改姓（名）届・旧姓使用申出書

姓・名に変更があれば、直ちに所定の届出用紙により報告してください。

また、旧姓を使用希望の場合は、旧姓使用申出書により手続きしてください。

成績評価等に関する申し立て

成績評価の疑義がある場合は、下記の方法で申し立てができます。授業に関する申し立ても下記と同様の方法によってください。

1. 授業担当教員への申し立て

成績評価等について疑義がある場合、まず、授業担当教員または所属の学務係に申し出てください。担当教員は、試験等資料を保管していますので、確認を行い、必要に応じて訂正等を行うことになっています。

2. 学位プログラム教務委員等による相談・調停

成績評価等の疑義に関する問題が、授業担当教員との協議では解消しない場合は、成績評価についての疑義申立書を学務係を通して各学位プログラム教務委員に提出してください。授業担当教員が教務委員である場合は学位プログラム長等に提出してください。

上記の提出を受けた教員は、事実確認等を行い、担当教員との話し合いを通じて、問題の解決を図ることとなっています。

授業料納付、免除制度及び奨学金制度

1. 授業料納付

授業料は、前期分（4月～9月）と後期分（10月～3月）に区分し、次の時期に自動引落を行います。

前期分 → 4月1日から5月27日まで 後期分 → 10月1日から11月27日まで

納付方法 → □座引落

2. 授業料免除制度

奨学援助の方法として、授業料免除の制度があります。これは経済的な理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、日本学生支援機構の給付型奨学金制度の給付対象となる者、また、各期ごとの納期前6ヶ月（新入生は1年）以内での学資負担者の死亡もしくは風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難であると認められた場合には、前期・後期ごとに選考のうえ、授業料の全額または半額が免除されます。

なお、この制度の適用を受けるためには授業料免除申請手続が必要です。

手続方法については、各学部・学務部及び教養教育の掲示板に、前期分は2月上旬、後期分は7月上旬に掲示するので注意してください。

3. 奨学資金制度

《日本学生支援機構》

日本学生支援機構は、人物、学業ともに優秀かつ健康であって、学資の支弁が困難と認められる者に対して、貸与し、人材の養成と教育の機会均等の実現を図ろうとするものです。

奨学金の種類には『第一種奨学金（無利子）』及び『第二種奨学金（有利子）』があります。

奨学生の募集については、その都度学生用掲示板に掲示しますが、春の定期募集は4月にあります。

注 1. 奨学生は、「奨学生のしおり」を熟読し、奨学生としての責務を果たし、異動（休業・退学）等が生じた時は速やかに学生支援課奨学金窓口（教養教育4号館1階）まで来てください。

2. 奨学金継続願の提出

奨学生は、毎年所定の月（12～1月頃）に継続願を提出し、審査を受ける必要があります。（変更される場合があるので、掲示を注意して見ること。）これを怠ると、奨学生の資格を失うので注意してください。

《日本学生支援機構以外の奨学金》

地方公共団体及びその他の奨学金の募集が毎年3月～5月頃にあるので、学生用掲示板を見てください。

学生教育研究災害障害保険

大学の教育研究活動中及び通学中等に、不慮の災害事故により身体に傷害を被った場合、事故の日時、場所、状況、傷害の程度を、事故通知報告書（学務部学生支援課学生支援係にあります）により保険会社へ届け出てください。事故の日から30日以内に届け出のない場合は、保険金が支払われない場合がありますので注意してください。

本人が学生支援課に来られない場合は、代理の方にきていただいても差し支えありません。

学生金庫

学生で、学資金の窮迫している者又は緊急の出費を必要とする者に対して一時援助をするために行う貸付金の制度です。詳細に関しては学務部教育支援課（学生後援会）へ相談してください。

1. 貸付限度額は10万円までとします。
2. 貸付期間は、貸し付け日より90日以内とします。
3. 貸付金は無利子・無担保とします。

住所・連絡先の変更について

学生への連絡は、原則として「学生用教務システム」(WEB)への配信及び掲示によりますが、緊急を要する場合の連絡等に必要のため、変更があれば直ちに所属の学務係に届け出てください。

また、保証人(保護者等)の変更や住所・連絡先変更の場合も、直ちに「保証人住所変更届」により届け出てください。

気象警報が徳島県徳島市に発令された場合の授業について

- ・昼間に開講する授業については、午前7時に「暴風警報と大雨警報」,「暴風警報と洪水警報」,「大雪警報」(以下「警報」という。)又は特別警報(波浪特別警報を除く。以下同じ)が発表中の場合は、午前の授業を休講とします。
午前11時に警報又は特別警報が発表中の場合は、午後の授業を休講とします。
- ・夜間に開講する授業については、午後4時に警報又は特別警報が発表中の場合は、すべての授業を休講とします。
- ・授業開始後に警報が発表された場合は、次の時限以降の授業を休講とします。ただし、特別警報が発表された場合は、直ちに休講とします。

健康管理

定期健康診断は、毎年4月から5月にかけて学部学年ごとに日を決めて行っています。これは、学校保健安全法で定められているものですから全員必ず受診してください。また、健康診断証明書は、定期健康診断受診者に対して、キャンパスライフ健康支援センター又は自動発行機で発行しています。発行日程等は健康診断実施日から2週間後を予定しています。

■インフルエンザ等の感染症と診断された場合の対応について

インフルエンザ等の感染症と診断された場合は、直ちに各自の学位プログラムの学位を担当する学務係に連絡してください。なお、感染者と同様の症状があり大学への登校を控える場合も、医師の診断を受けてください。

《学術》

総合科学部事務課学務係

TEL 088-656-7108

《工学》

理工学部事務課学務係

TEL 088-656-7315, 088-656-8012, 088-656-7317

088-656-7316, 088-656-8006

《農学》

生物資源産業学部

TEL 088-656-8021

セクシュアル・ハラスメント，アカデミック・ハラスメントの発生防止のために

教育の現場において、セクシュアル・ハラスメントは断じてあってはならないことですが、教員と学生との間、職員と学生との間、上級生（院生）と下級生との間等には教える側と教えられる側といういわば上下関係または力関係があることにより、セクシュアル・ハラスメント問題が発生する恐れがあります。

学生は、自らがセクシュアル・ハラスメントの被害にあわない、引き起こさないという問題意識を常に持ち続けることが、社会人となって仕事をする上でも、また、21世紀の我が国の男女共同参画社会の実現のためにも重要です。

創成科学研究科では、セクシュアル・ハラスメント問題が発生しない教育環境の中で学生が教育を受けることができるよう人権・教育相談体制を整備し、学生のためのセクシュアル・ハラスメントに対する相談員を設けております。セクシュアル・ハラスメントは巧妙に行われ、罪がないように見える場合もあります。相談員は、プライバシーを厳重に守りますので、もしあなたがセクシュアル・ハラスメントの被害にあったら迷わずに相談員に相談してください。相談員は大学のHPに掲載されていますので、電話をするか、直接相談員に面会してください。

■セクシュアル・ハラスメントとは

セクシュアル・ハラスメントとされる行為には、たとえば次のようなものがあります。

① 言葉によるセクシュアル・ハラスメント

例) 講義の最中、A教授はいつも卑猥な冗談を言う。女子学生の一人が笑わないでいると、「君には冗談が通じないね。」と一言。彼女は抗議したいが成績評価が悪くなるのを恐れて我慢している。

言葉によるセクシュアル・ハラスメントとしては、「いかがわしい冗談」の他にも「固定的な性別役割意識に基づく言葉」や「肉体的な外観、性行動、性的好みに関する不適切な言葉」などがあります。性的なからかい、冷やかし、中傷などもこれに相当します。

② 視線・動作によるセクシュアル・ハラスメント

例) 実験室のB助手は、個別指導の最中にある女子学生の手を握った。学生はショックで動くことができなかった。それからというもの、実験の最中に彼はじっと彼女を見つめるようになった。彼女が気付くと目配せをする。彼女は悩み続け、ストレスから勉学意欲もなくなってしまった。

この種のハラスメントは軽く判断されがちです。しかし、それを受ける被害者自身にとっては大きな苦痛であり、精神的なストレスになる場合があります。

③ 行動によるセクシュアル・ハラスメント

例) 卒業指導の最中に、ゼミのC教授はある女子学生をデートに誘った。彼女が誘いを断ると「指導する気がなくなった。あなたは本当に卒業したいのですか。」と含みのある言葉を返した。彼女は卒業ができなくなるかもしれないという予期せぬ事態に狼狽した。

例) D教授は、コンパの席ではいつも女子学生を自分の隣に座らせ、酒の酌をさせている。女子学生は、D教授の機嫌を損ねないように笑顔で受け答えをしているが、心の中では激しい嫌悪感を感じている。

例) EとFは同じ研究室の大学院生である。EはFに交際を申し込んだが断られた。しかしEは諦めない。Fに毎晩電話をし性的な言葉を投げかける。留守電に性的な意味を含んだメッセージを入れる。最近ではFの後をつけ回し始め、Fはすっかりおびえてしまっている。

ここに挙げた例以外にも女性から男性へ、同性から同性へ等いろいろなセクシュアル・ハラスメントが考えられます。

■アカデミック・ハラスメントの発生防止のために

アカデミック・ハラスメントも重大な人権侵害です。それは就学の場で「指導」、「教育」または「研究」の名を借りて、嫌がらせや差別をしたり、人格を傷つけることです。例えば、

- * 相手によって差別したり、必要以上に厳しく指導したりする。
- * 「おまえはやっぱりダメだ」と全てを否定する言い方を繰り返す。
- * 指導の際に「大学をやめろ」とか、「卒業させない」と言う。
- * 女性に対して差別的言動や処遇をしたり、指導を放棄したりする。

セクシュアル・ハラスメントもアカデミック・ハラスメントも、教員と学生の間だけではなく、サークルやゼミの先輩と後輩、同級生同士であっても許されません。

その他に「一気飲みの強要」や「ストーカー行為」も人権侵害となります。

《 学位審査等学事日程 》

年次	時期		内容		備考
	4月入学	10月入学			
第1年次	4月	10月	<p>主指導教員による，新人生オリエンテーション，履修ガイダンス（履修計画検討）</p> <p>研究指導組織，選択する研究指導クラスターの検討 研究題目，研究計画の立案・提出</p>	研究計画指導（1年前期）	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導体制，研究指導クラスターの概要，研究指導スケジュール等の説明 倫理，安全教育の実施
	5月	11月	研究指導組織，研究指導クラスターの決定		<ul style="list-style-type: none"> 学生は主指導教員と相談の上，研究題目を決定し，それに基づく研究指導組織（副指導教員）の構成及び選択する研究指導クラスターと当該クラスターから複数名の学位プログラム外教員を選考する。
	6月	12月	研究構想案発表会		<ul style="list-style-type: none"> 学生自身の研究の位置づけを把握し，今後の研究プランを立てると共に，プレゼンテーション技術を修得
	9月	3月	<p>学位プログラム発表会 ※公聴会形式 取得学位の仮決定</p> <p>研究計画に基づく研究指導</p>		<ul style="list-style-type: none"> 研究の進捗状況と今後の研究計画等について発表（中間発表指導）
	10月	4月	<p>「創成科学特別演習」による指導 (第1年次後期～第2年次前期)</p> <p>適宜，研究計画の見直し</p>		<ul style="list-style-type: none"> 研究の進捗状況に応じて，指導教員と相談しながら，適宜，研究計画を見直す。
第2年次	9月	3月	「創成科学特別演習」発表会	創成科学特別演習 学位プログラム特別研究	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導クラスター教員（学生が所属する学位プログラム外教員（複数名））を中心に指導
	10月	4月	「創成科学特別研究」による研究指導 (第2年次後期～第3年次前期)		<ul style="list-style-type: none"> 主指導教員（学位プログラム内教員）と副指導教員（研究指導クラスター教員）による研究指導
	12月	6月	<p>学位プログラム中間発表（取得学位決定） ※公聴会形式</p> <p>中間審査</p>		<ul style="list-style-type: none"> 研究の進捗状況と今後の研究計画について発表
第3年次	9月	3月	「創成科学特別研究」発表会		
	10月	4月	予備審査書類提出 予備審査		<ul style="list-style-type: none"> 学位論文予備審査委員会編成
	1月	7月	学位論文提出		<ul style="list-style-type: none"> 学位論文審査委員会編成
	2月	8月	学位審査会（公聴会形式） 最終試験（論文審査）		<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとに公聴会形式で審査会を開催
	3月	9月	学位論文製本等提出		<ul style="list-style-type: none"> 課程修了，博士の学位授与

規 則

徳島大学大学院学則

徳島大学学位規則

徳島大学大学院創成科学研究科学位規則実施細則

上記の規則について、令和 4 年 4 月 1 日に改正があるため掲載していません。
徳島大学大学院創成科学研究科のHPに掲載しますので必ず確認してください。

徳島大学大学院創成科学研究科HP（履修の手引(大学院)）

<https://www.sti.tokushima-u.ac.jp/student/>



徳島大学大学院創成科学研究科規則

令和 2 年 2 月 13 日
規則第 39 号制定

第 1 章 総則

(通則)

第 1 条 徳島大学大学院創成科学研究科（以下「本研究科」という。）に関する事項は、徳島大学大学院学則（昭和 50 年規則第 495 号。以下「学則」という。）及び徳島大学学位規則（昭和 50 年規則第 496 号。以下「学位規則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

2 学則、学位規則及びこの規則に定めるもののほか、本研究科に関する事項は、本研究科教授会又は本研究科の各専攻に置く教授会（以下「教授会等」という。）が定める。

(教育研究上の目的)

第 2 条 本研究科は、中長期的な産業界・社会のニーズを踏まえ、グローバルかつ複合的な視点から、科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人を養成することを目的とする。

第 2 章 教育課程

(専攻及び教育方法)

第 3 条 本研究科に次の専攻を置く。

(1) 博士前期課程

- ア 地域創成専攻
- イ 臨床心理学専攻
- ウ 理工学専攻
- エ 生物資源学専攻

(2) 博士後期課程

創成科学専攻

2 本研究科の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

(教育方法の特例)

第 4 条 本研究科において、教授会等が教育上特別の必要があると認める場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(授業科目及び単位数)

第 5 条 授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に分ける。

2 授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。

3 本研究科博士前期課程においては、前項の別表のうち、分野又は専攻横断型の授業科目で構成する教育クラスターを置く。教育クラスター科目については、本研究科長が別に定める。

(授業科目の履修方法)

第 6 条 学生は、別表の授業科目について、次表に定める単位を修得しなければならない。

(1) 博士前期課程

専攻名	単位数		
	必修科目	選択科目	計
地域創成専攻	16 単位	16 単位以上	32 単位以上
臨床心理学専攻	28 単位	16 単位以上	44 単位以上
理工学専攻	14 単位	18 単位以上	32 単位以上
生物資源学専攻	16 単位	16 単位以上	32 単位以上

(2) 博士後期課程

専攻名	単位数		
	必修科目	選択科目	計
創成科学専攻	10 単位	1 単位以上	11 単位以上

2 履修する授業科目の選択に当たっては、あらかじめ定める指導教員（直接研究指導に当たる教員をいう。以下同じ。）の指導を受けなければならない。

3 本研究科において教育上有益と認めるときは、他研究科との協議に基づき、当該研究科の授業科目を履修させることができる。

4 前項の授業科目を履修しようとするときは、学生は、本研究科長の許可を得なければならない。

5 第 3 項の規定により履修した授業科目の単位は、本研究科において認めるときは、第 1 項各号に規定する選択科目の単位に含めることができる。

6 本研究科において教育上有益と認めるときは、指導教員の指導により自由科目として授業科目を履修することができる。ただし、自由科目の単位は第 1 項各号に規定する単位に含めることはできない。

7 この条に定めるもののほか授業科目の履修に関し必要な事項は、本研究科長が別に定める。

第 6 条の 2 学則第 11 条第 1 項ただし書及び学則第 12 条第 2 項の規定による優れた研究業績を上げたこと認められる者に関し必要な事項は、別に定める。

(研究指導)

第 7 条 研究指導は、指導教員が行うものとする。

2 前項の研究指導は、研究課題の研究の指導及び学位論文の作成の指導とする。

(試験の告示)

第 8 条 試験の授業科目、日時その他必要な事項は、あらかじめ告示する。

(成績評価等)

第 9 条 博士前期課程における各授業科目の成績は、100 点をもって満点とし、S (90 点以上)、A (89 点～80 点)、B (79 点～70 点)、C (69 点～60 点) 及び D (59 点以下) の成績表示をもってあらわし、S、A、B 及び C を合格、D を不合格とする。

2 博士後期課程における各授業科目の成績は、S、A、B、C 及び D の成績表示をもってあらわし、S、A、B 及び C を合格、D を不合格とする。

3 前 2 項の S、A、B、C 及び D の評価基準は、次の表のとおりとする。

成績表示	評価基準
S	科目の到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
A	科目の到達目標を十分に達成している。
B	科目の到達目標を達成している。
C	科目の到達目標を最低限達成している。
D	科目の到達目標の項目の全て又はほとんどを達成していない。

4 前 3 項の規定にかかわらず、入学前の既修得単位等により判定する授業科目の成績は、認められた成績表示をもってあらわすことができるものとし、合格とする。

5 前各項の規定にかかわらず、早期履修により修得した単位に係る成績評価の取り扱いについて必要な事項は、本研究科

長が別に定める。

(追試験及び再試験)

第 10 条 疾病その他やむを得ない事情のため、正規の試験を受けることができなかった者は、追試験を受けることができる。

2 前項の追試験を受けることができなかった者又は試験を受けて不合格となった者は、原則としてその学年末までに再試験を受けることができる。

(転学者の取扱い)

第 11 条 他の大学院又は外国の大学院（これに相当する教育研究機関を含む。以下同じ。）若しくは国際連合大学（以下「外国の大学院等」という。）から本研究科に転学をした者の在学年数及び既修得単位の換算については、その都度教授会等が定める。

(転研究科等)

第 12 条 学則第 26 条の 2 の規定に基づき、転研究科等を願い出た者があるときは、教育上支障がない場合に限り選考の上、許可することができる。

2 転研究科等を許可する時期は、教授会等が定める。

3 転研究科等を許可した学生を在籍させる年次は、教授会等が定める。

4 転研究科等を許可した学生の既修得単位の認定は、教授会等が定める。

(転専攻)

第 13 条 学則第 26 条の 3 の規定に基づき、転専攻を願い出た者があるときは、教育上支障がない場合に限り選考の上、許可することができる。

2 転専攻を許可する時期は、教授会等が定める。

3 転専攻を許可した学生を在籍させる年次は、教授会等が定める。

4 転専攻を許可した学生の既修得単位の認定は、教授会等が定める。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第 14 条 学則第 9 条、第 27 条及び第 27 条の 2 の規定に基づき、他の大学院若しくは国際連合大学の授業科目の履修を志願し、若しくは他の大学院等において必要な研究指導を受けることを志願し、又は外国の大学院に留学を志願する学生は、所定の願書を、本研究科長を経て学長に提出し、許可を受けなければならない。

(単位の認定)

第 15 条 前条の規定により許可を受けた者（以下「派遣学生」という。）が他の大学院若しくは外国の大学院等で修得した単位又は学則第 9 条の 2 の規定に基づき学生が休学期間中に外国の大学院において履修した授業科目について修得した単位の認定は、当該大学院が発行する成績証明書等により教授会等が行う。

(履修等報告書)

第 16 条 派遣学生は、他の大学院等又は外国の大学院等での履修の期間又は研究指導を受けた期間が満了したときは、所定の履修等報告書を速やか（外国の大学院に留学した者については、帰国の日から 1 月以内）に本研究科長を経て学長に提出しなければならない。

(派遣学生の実施に関する細目)

第 17 条 前 3 条に定めるもののほか、派遣学生に関し必要な事項は、本研究科長が別に定める。

(入学前の既修得単位の認定)

第 18 条 学則第 9 条の 3 の規定による入学前の既修得単位の認定は、当該大学院等が発行する成績証明書等により教授会等が行う。

附 則

この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

2 令和 3 年度以前に本研究科に入学した者の課程、修了及び学位については、改正後の第 3 条第 1 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 令和 3 年度以前に本研究科に入学した者については、この規則による改正後の第 6 条、第 9 条及び別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表

(1) 博士前期課程

地域創成専攻

授業科目及び単位数

科目区分	授業科目	単位数			
		必修	選択	自由	
研究科共通科目	研究科基盤教育科目	データサイエンス	2		
	グローバル教育科目群	国際協力論		1	
		グローバル社会文化論		1	
		グローバルコミュニケーションA		1	
		グローバルコミュニケーションB		1	
		グローバルコミュニケーションC		1	
	イノベーション教育科目群	科学技術論A		1	
		科学技術論B		1	
		科学技術論C		1	
		科学技術論D		1	
科学技術論E			1		
ビジネスモデル特論			1		
デザイン思考演習			1		
地域企業エクスターニシッ 実践型地域インターンシップ			1		
専攻基盤科目	地域創成論		1		
	地域創成プロジェクト研究		3		
	アカデミック・ライティング		1		
専攻専門科目	地域系科目	地域計画学特論		2	
		地域社会特論		2	
		公共政策特論		2	
		法律学特論		2	
		経済学特論		2	
		地域構造特論		2	
		空間情報科学特論		2	
		地域文化特論		2	
		地域言語特論		2	
		日本歴史文化特論		2	
		アート表現特論		2	
		映像デザイン特論		2	
		空間デザイン特論		2	
		健康社会特論		2	
		応用生理学特論		2	
		福祉社会特論		2	
		行動科学		2	
		健康科学特論		2	
		健康心理学特論		2	
	運動栄養学特論		2		
	グローバル系科目	グローバル社会特論		2	
		グローバル文化特論		2	
		国際関係特論		2	
国際経済特論			2		
		応用倫理学特論		2	
		言語コミュニケーション特論		2	

	英語圏文化特論		2	
	英語圏歴史文化特論		2	
	ヨーロッパ文化特論		2	
	アジア文化特論		2	
	日本語文化特論		2	
	日本文化特論		2	
学位論文指導科目	地域創成特別演習	8		
	領域横断セミナー	1		

臨床心理学専攻
授業科目及び単位数

科目区分	授業科目	単位数			
		必修	選択	自由	
研究科共通科目	研究科基盤教育科目	データサイエンス	2		
	グローバル教育科目群	国際協力論		1	
		グローバル社会文化論		1	
		グローバルコミュニケーションA		1	
		グローバルコミュニケーションB		1	
		グローバルコミュニケーションC		1	
	イノベーション教育科目群	科学技術論A		1	
		科学技術論B		1	
		科学技術論C		1	
		科学技術論D		1	
		科学技術論E		1	
		ビジネスモデル特論		1	
		デザイン思考演習		1	
		地域企業エクスターンシップ		1	
実践型地域インターンシップ			1		
専攻専門科目	必修科目	臨床心理学特論A ※	2		
		臨床心理学特論B ※	2		
		臨床心理面接特論A (心理支援に関する理論と実践) ※	2		
		臨床心理面接特論B ※	2		
		臨床心理査定演習A (心理的アセスメントに関する理論と実践) ※	2		
		臨床心理査定演習B ※	2		
		臨床心理基礎実習A ※	1		
		臨床心理基礎実習B ※	1		
		臨床心理実習A (心理実践実習Ⅱ) ※	1		
		臨床心理実習B ※	1		
	選択科目	認知心理学特論		2	
		認知心理学特論演習 ※		2	
		生涯発達心理学特論 ※		2	
		社会心理学特論 ※		2	
		精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) ※		2	
		障害臨床心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) ※		2	
		心理療法特論 ※		2	
		臨床心理的地域援助特論 ※		2	
		自由科目	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)		
犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) ※				2	
産業・労働分野に関する理論と支援の展開				2	
家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)				2	
心の健康教育に関する理論と実践				2	
心理実践実習Ⅰ ※				1	
心理実践実習Ⅲ ※				2	
心理実践実習Ⅳ ※				2	
心理実践実習Ⅴ ※				2	
心理実践実習Ⅵ ※				2	
学位論文指導科目	臨床心理学特別演習	8			
	臨床心理分野横断セミナー	2			

備考 授業科目欄の※印の授業科目は、専門科目のみの授業科目を示す。

理工学専攻
授業科目及び単位数

科目区分	授業科目	単位数			
		必修	選択	自由	
研究科共通科目	研究科基盤教育科目	データサイエンス	2		
	グローバル教育科目群	国際協力論		1	
		グローバル社会文化論		1	
		グローバルコミュニケーションA		1	
		グローバルコミュニケーションB		1	
		グローバルコミュニケーションC		1	
	イノベーション教育科目群	科学技術論A		1	
		科学技術論B		1	
		科学技術論C		1	
		科学技術論D		1	
		科学技術論E		1	
		ビジネスモデル特論		1	
		デザイン思考演習		1	
		地域企業エクスターンシップ		1	
実践型地域インターンシップ			1		
理工学専攻共通科目	インターンシップ (M)		2		
所属基盤コース専門科目	数理科学コース	力学系数理特論		2	
		離散数学特論		2	
		組合せ最適化特論		2	
		数式処理特論		2	
		幾何学特論		2	
		現象数理解析特論		2	
		数値大域解析特論		2	
		非線形現象解析特論		2	
		確率計画法特論		2	
		関数方程式特論		2	
	自然科学コース	量子科学基礎理論		2	
		宇宙素粒子科学特論		2	
		宇宙線計測学特論		2	
		量子物性物理学		2	
		超伝導物質科学		2	
		強相関物質科学		2	
		固体イオニクス		2	
		磁気共鳴科学		2	
		物性計測学		2	
		極限環境物性学		2	
		環境物理化学特論		2	
		グリーンケミストリー特論		2	
		有機機能性物質化学特論		2	
環境無機化学特論		2			
環境分析化学特論		2			
有機合成化学特論		2			
物質化学特論		2			
有機金属化学特論		2			
生物化学特論		2			
発行情報科学特論		2			
生命情報科学特論		2			
集団遺伝学特論		2			
構造地質学特論		2			
環境・防災地質学特論		2			
岩石・鉱物学特論		2			
社会基盤デザインコース	耐震工学特論		2		
	耐風工学特論		2		
	斜面減災工学特論		2		
	津波解析特論		2		
	地盤力学特論		2		
	応用水理学特論		2		
	鉄筋コンクリート工学特論		4		
	建設材料物性特論		2		
	リスクコミュニケーション		2		
	危機管理学		2		
	メンタルヘルスケア		2		
	防災危機管理実習		1		
	行政・企業のリスクマネジメント		2		
	事業継続計画 (BCP) の策定と実践		2		

	行政・企業防災・危機管理実務演習	1			情報セキュリティシステム論	2		
	都市交通計画特論	2			画像応用工学	2		
	都市・地域計画論	2			ヒューマンセンシング	2		
	プロジェクトマネジメント	2			自然言語理解	2		
	都市交通システム計画	2			言語モデル論	2		
	都市地域情報システム	2			機械翻訳特論	2		
	建築計画学演習	2			マルチメディア工学	2		
	建築系インターン	5						
	流域水管理工学	2			光システムコース	2		
	ミチゲーション工学	2			光物性工学	2		
	環境生態学特論	2			フォトニックデバイス	2		
	グリーンインフラ論	2			ナノ光計測工学	2		
					ナノ材料工学	2		
機械科学コース	生産システム論	2			光結晶設計工学 ※	2		
	応用流体力学特論	2			光機能材料・光デバイス論 1	1		
	材料強度学特論	2			光機能材料・光デバイス論 2	1		
	燃焼工学	2			ディスプレイ論	2		
	生産加工学	2			視覚情報処理	2		
	バイオメカニカルデザイン	2			多元画像処理	2		
	バイオマテリアル	2			バーチャルリアリティ技術 ※	2		
	機械材料物性特論	2			光通信システム工学特論	2		
	計算力学特論	2			フォトニックネットワーク	2		
	流体エネルギー変換工学	2			光システム工学論 ※	1		
	振動工学特論	2						
	材料工学	2			理工学専攻	2		
	エネルギー環境工学	2			計算数理解特論	2		
	熱力学特論	2			応用代数特論	2		
	分光計測学	2			数理解析方法論	2		
	ロボット工学特論	2			微分方程式特論	2		
	デジタル制御論	2			代数学特論	2		
	分子エネルギー遷移論	2			応用解析学特論	2		
	非破壊計測学	2			数学解析特論	2		
	アクチュエータ理論	2			課題解決型インターンシップ(M)	4		
					アプリケーション実装実習	2		
応用化学システムコース	立体化学特論	2			学位論文指導科目	4		
	有機化学特論	2			理工学特別実習	4		
	高分子化学特論	2			数理科学特別輪講	4		
	物理化学特論	2			数理科学特別研究	4		
	量子化学特論	2			自然科学特別輪講	4		
	分析・環境化学特論	2			自然科学特別研究	4		
	物性化学特論	2			社会基盤デザイン特別輪講	4		
	化学反応工学特論	2			社会基盤デザイン特別研究	4		
	分離工学特論	2			機械科学特別輪講	4		
	材料科学特論	2			機械科学特別研究	4		
	化学環境工学特論 ※	2			応用化学システム特別輪講	4		
	科学技術コミュニケーション ※	2			応用化学システム特別研究	4		
	物質合成化学特論 ※	1			電気電子システム特別輪講	4		
	物質機能化学特論 ※	1			電気電子システム特別研究	4		
	化学プロセス工学特論 ※	1			知能情報システム特別輪講	4		
					知能情報システム特別研究	4		
					光システム特別輪講	4		
					光システム特別研究	4		
電気電子システムコース	電力工学特論	2						
	電磁環境特論	2						
	制御理論特論	2						
	高電圧工学特論	2						
	デジタル通信工学特論	2						
	光デバイス特論	2						
	ナノエレクトロニクス特論	2						
	回路工学特論	2						
	電子回路特論	2						
	電気機器応用システム特論	2						
	電力システム特論	2						
	制御応用工学特論	2						
	電子デバイス特論	2						
	デバイスプロセス特論	2						
	集積回路特論	2						
	プラズマ応用工学特論	2						
	光材料科学特論	2						
	半導体工学特論	2						
	生体工学特論	2						
知能情報システムコース	自律知能システム	2						
	複雑系システム工学特論	2						
	情報ネットワーク	2						

備考 授業科目欄の※印の授業科目は、所属基盤コース専門科目のみの授業科目を示す。

生物資源学専攻 授業科目及び単位数

科目区分	授業科目	単位数			
		必修	選択	自由	
研究科共通科目	研究科基盤教育科目	データサイエンス	2		
	グローバル教育科目群	国際協力論		1	
		グローバル社会文化論		1	
		グローバルコミュニケーションA		1	
		グローバルコミュニケーションB		1	
		グローバルコミュニケーションC		1	
	イノベーション教育科目群	科学技術論A		1	
		科学技術論B		1	
		科学技術論C		1	
		科学技術論D		1	
科学技術論E			1		
	ビジネスモデル特論		1		
	デザイン思考演習		1		
	地域企業エクスターンシップ		1		
	実践型地域インターンシップ		1		

専攻共通科目	生物資源学研究	4		
所属基盤コース専門科目	応用生命科学コース	創薬学特論	2	
		細胞工学特論	2	
		生物化学工学特論	2	
		生体熱力学特論	2	
		生物物理化学特論	2	
		先端生命科学特論	2	
		環境生物学特論	2	
		再生医学特論	2	
		微生物工学特論	2	
		ケミカルバイオロジー特論	2	
	細胞情報学特論	2		
	微生物検査学特論	2		
	応用生命科学特別実習 ※	1		
	応用生命科学特別講義 ※	1		
	食料生物科学コース	食安全学特論	2	
		酵素化学特論	2	
		応用微生物学特論	2	
		生体機能学特論	2	
		機能性食品学特論	2	
		栄養生化学特論	2	
食品評価特論		2		
分子組織代謝学特論		2		
食品加工保蔵特論		2		
資源利用学特論		2		
食料生物科学特別実習 ※		1		
食料生物科学特別講義 ※		1		
生物生産科学コース		植物細胞工学特論	2	
	動物生殖工学特論	2		
	フィールド水圏生物学特論	2		
	畜産物利用学特論	2		
	植物保護学特論	2		
	森林代謝科学特論	2		
	分子発生生物学特論	2		
	生産システム制御工学特論	2		
	分子生態学特論	2		
	植物分子生物学特論	2		
	水産植物学特論	2		
	農業市場学特論	2		
	森林生物学特論	2		
	発生生物学※	2		
	農業経済学特論	2		
生物生産科学特別実習 ※	1			
生物生産科学特別講義 ※	1			
学位論文指導科目	応用生命科学特別演習	4		
	応用生命科学特別研究	4		
	食料生物科学特別演習	4		
	食料生物科学特別研究	4		
	生物生産科学特別演習	4		
	生物生産科学特別研究	4		

備考 授業科目欄の※印の授業科目は、所属基盤コース専門科目のみの授業科目を示す。

(2) 博士後期課程

創成科学専攻
授業科目及び単位数

科目区分	授業科目	単位数		
		必修	選択	自由
研究科共通選択科目	長期インターンシップ		2	
	企業行政演習		1	
	ビジネスモデル特論		1	
	国際先端技術科学特論A		1	
	国際先端技術科学特論B		1	
研究科共通必修科目	演習科目	創成科学特別演習	2	
	研究指導科目	創成科学特別研究	2	
学位プログラム専門科目	研究指導科目	社会基盤システム特別研究	6	
		化学生命工学系特別研究	6	
		機械科学系特別研究	6	
		電気電子物理科学系特別研究	6	
		知能情報・数理科学系特別研究	6	
		生物資源学系特別研究	6	
		光科学系特別研究	6	

徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻履修細則

令和4年4月1日
大学院創成科学研究科長制定

第1条 この細則は、徳島大学大学院創成科学研究科規則（以下「規則」という。）第6条第7項の規定に基づき、徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻（以下「創成科学専攻」という。）における授業科目の履修方法について必要な事項を定めるものとする。

第2条 授業科目及び単位数は別表のとおりとする。

第3条 創成科学専攻の学生は、前条別表に定める授業科目について、次の各号に掲げるとおり単位を修得しなければならない。

- (1) 研究科共通選択科目
研究科共通選択科目から1単位以上を履修しなければならない。
- (2) 研究科共通必修科目
研究科共通必修科目から創成科学特別演習及び創成科学特別研究を履修し、4単位を修得しなければならない。
- (3) 学位プログラム専門科目
所属する学位プログラムが開設する学位プログラム専門科目を履修し、単位を修得しなければならない。
 - イ 社会基盤システムプログラム
学位プログラム専門科目のうち、社会基盤システム特別研究を履修し、6単位を修得しなければならない。
 - ロ 化学生命工学系プログラム
学位プログラム専門科目のうち、化学生命工学系特別研究を履修し、6単位を修得しなければならない。
 - ハ 機械科学系プログラム
学位プログラム専門科目のうち、機械科学系特別研究を履修し、6単位を修得しなければならない。
 - ニ 電気電子物理科学系プログラム
学位プログラム専門科目のうち、電気電子物理科学系特別研究を履修し、6単位を修得しなければならない。
 - ホ 知能情報・数理科学系プログラム
学位プログラム専門科目のうち、知能情報・数理科学系特別研究を履修し、6単位を修得しなければならない。
 - ヘ 生物資源学系プログラム
学位プログラム専門科目のうち、生物資源学系特別研究を履修し、6単位を修得しなければならない。
 - ト 光科学系プログラム
学位プログラム専門科目のうち、光科学系特別研究を履修し、6単位を修得しなければならない。

附 則

この細則は、令和4年4月1日から施行する。

別表
博士後期課程
創成科学専攻
授業科目及び単位数

科目区分	授業科目	単位数		
		必修	選択	自由
研究科共通選択科目	企業行政演習		1	
	ビジネスモデル特論		1	
	長期インターンシップ		2	
	国際先端技術科学特論A		1	
	国際先端技術科学特論B		1	
研究科共通必修科目	創成科学特別演習	2		
	創成科学特別研究	2		
学位プログラム専門科目	社会基盤システム特別研究	6		
	化学生命工学系特別研究	6		
	機械科学系特別研究	6		
	電気電子物理科学系特別研究	6		
	知能情報・数理科学系特別研究	6		
	生物資源系特別研究	6		
	光科学系特別研究	6		

徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程学位論文審査基準

徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程学位論文審査基準 創成科学専攻（社会基盤システムプログラム）

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が社会基盤システム分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること。

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること。

③ 結論の妥当性

結論が論理的かつ明確に導出されていること。

④ 独創性・オリジナリティ

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること。

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、または当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること。

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するために相応しい倫理観、技術力、研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること。

徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程学位論文審査基準 創成科学専攻（機械科学系プログラム）

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が機械工学の分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること。

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること。

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的、かつ、明確に導出されていること。

④ 独創性・オリジナリティ

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること。

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること。

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の倫理観、技術力、研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること。

徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程学位論文審査基準 創成科学専攻（化学生命工学系プログラム）

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、審査対象者が、化学生命工学領域の研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

論文の研究テーマについて、研究の背景、位置づけ、目的が適確に述べられており、博士論文として十分な学術的および社会的意義を有していること。

② 研究方法の妥当性

設定した研究テーマに対して、適切な研究方法および研究計画が立案されており、かつ、得られた結果に対して妥当な分析と考察がなされていること。

③ 結論の妥当性

結論が従来の研究を踏まえて論理的、かつ、明確に導き出されていること。またそのための論文の構成[本文、図、表、参考文献]が適切であること。

④ 独創性・オリジナリティ

研究テーマ及び問題設定、研究方法、結論等に注目すべき新規性および独創性が認められること。

⑤ 社会又は学会等への貢献

研究成果の社会への貢献が期待されるか、または化学生命工学領域の発展に貢献できる学術的価値が認められること。

⑥ 総合力

化学生命工学領域における高度な知識と技術を有し、学際的および独創的な考えで課題解決に取り組み、地域・国際社会に貢献できる自立した研究者として認められること。またそのために必要な外国語能力を備えていること。

徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程学位論文審査基準 創成科学専攻（電気電子物理科学系プログラム）

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が電気電子物理科学系の分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること。

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること。

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること。

④ 独創性・オリジナリティ

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること。

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること。

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の倫理観、技術力、研究能力、エンジニアリングデザイン能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること。

徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程学位論文審査基準
創成科学専攻（知能情報・数理科学系プログラム）

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、審査対象者が情報工学、知能工学、数理科学の分野において、研究者として研究活動を行い、又はその他の専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること。

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること。

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること。

④ 独創性・オリジナリティ

研究テーマ及び問題設定、分析方法、解決方法、結論等に注目すべき独創性が認められること。

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること。

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の倫理観、技術力、研究能力、コミュニケーション能力、情報収集・発信能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること。

徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程学位論文審査基準
創成科学専攻（光科学系プログラム）

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が光科学・光工学の分野において、研究者・技術者として自立した研究活動、又は高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること

④ 独創性・オリジナリティ

研究テーマ及び問題設定、分析方法、結論等に注目すべき独創性が認められること

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の倫理観、技術力、研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること

徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程学位論文審査基準
創成科学専攻（生物資源学系プログラム）

博士の学位論文は、次に掲げる点を総合的に考慮し、かつ、審査対象者が生物資源学の分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有していると認められる場合に合格とする。

① 研究テーマ・問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に独創性や新規性があり、学術的及び社会的意義があると認められること。

② 研究方法の妥当性

研究テーマについて、適切に先行研究と関連づけつつ、問題設定に対してふさわしい研究方法を実践していること。

③ 結論の妥当性

結論がそれまでの展開を踏まえて論理的且つ明確に導出されていること。

④ 独創性・オリジナリティ

研究テーマ及び問題設定、分析方法、解決方法、結論等に注目すべき独創性が認められること。

⑤ 社会又は学会等への貢献

社会への貢献が期待され、又は当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められること。

⑥ 総合力

高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の倫理観、技術力、研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すると認められ、研究者として自立して研究活動を行うことができること。

徳島大学大学院創成科学研究科の博士学位審査に関する内規

令和4年4月1日
大学院創成科学研究科長制定

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この内規は、徳島大学大学院創成科学研究科学学位規則実施細則(以下「細則」という。)第14条の規定に基づき、徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻(以下「専攻」という。)における博士学位審査の実施に関し必要な細目を定めるものとする。

第2章 課程修了による学位審査

(予備審査)

第2条 細則第2条第1項に規定する時期に課程博士の学位論文を提出しようとする者は、細則第3条第1項の規定により、あらかじめ創成科学専攻教授会(以下「専攻教授会」という。)による予備審査を受け、承認を得るものとする。

(予備審査の申請書類)

第3条 予備審査を申請する者は、指導教員の承認を得て、次の各号に掲げる書類を創成科学専攻長(以下「専攻長」という。)に提出するものとする。ただし、第2号及び第3号の書類については、予備審査委員会の委員(審査協力者を含む。)が3人を超える場合は、その委員の数の部数とする。

- (1) 予備審査申請書(様式1) 1部
- (2) 学位論文の内容梗概(30ページ程度) 3部
- (3) 参考論文(学術雑誌に投稿中のものは、その原稿の写し) 各3部

(予備審査の申請時期)

第4条 予備審査の申請時期は、予定されている学位論文提出時期の3月以前とする。

(予備審査の付託)

第5条 予備審査の申請があったときは、専攻長は専攻教授会に付議し、申請者ごとに予備審査委員会を組織し、学位論文の審査の請求に値するか否かを決定するための予備審査を付託する。

(予備審査委員会)

第6条 予備審査委員会は、専攻の研究指導教員のうちから、申請者の指導教員を含めて選出された3人以上の委員によって構成する。ただし、必要があるときは、徳島大学大学院の担当教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等の協力(予備審査委員に加わることを含む。)を求めることができる。

- 2 前項の委員の選出は、投票によるものとする。
- 3 予備審査委員会に委員の互選による委員長を置き、委員長は予備審査委員会の総括を行う。
- 4 予備審査委員会は、予備審査を付託された日から1月以内に、学位論文の審査の請求に値するか否かを決定し、委員長はその結果を専攻教授会に報告する。

(予備審査の議決と結果の通知)

第7条 専攻教授会は、予備審査委員会委員長の報告に基づき、学位論文の審査の請求に値するか否かを審議の上議決し、その結果を速やかに申請者に通知する。

(課程博士の学位論文の提出時期)

第8条 課程博士の学位論文を提出する時期は、博士後期課程の各学年の1月又は7月の指定の期日までとする。第15条

で定める単位修得退学後3年以内の者についても同様とする。

(参考論文)

第9条 細則第3条第1項第7号の参考論文とは、申請者によって執筆され、学位論文の主要な内容が記述された公刊論文又は公刊されることが証明された論文原稿をいう。

2 前項の参考論文には、原則として、学位申請者が主として寄与した研究成果を申請者自身が執筆し、権威ある学術雑誌に投稿して査読の結果受理された主論文が1報以上あることを必要とする。

3 公刊論文として、さらに数編程度の副論文があることが望ましい。

4 主論文が学位申請者を含む複数の著者によって執筆された共著論文の場合には、その論文の成果が主として学位申請者が寄与したものであり、主要部分が申請者によって執筆されたものであることを、すべての共著者が署名捺印の上証明する細則第3条第1項第8号の共著者の承諾書の提出を必要とする。なお、指導教員が論文提出について共著者の承諾を得ている場合は、承諾確認書(様式3)をもってこれに代えることができる。

(主論文)

第10条 主論文は、ただ1人の学位論文に用いられるものでなくてはならない。そのため、学位申請者の単著又は筆頭著者であることが望ましいが、特別な事情によってそうでない場合には、前条の共著者の承諾書又は承諾確認書を提出させるとともに、審査委員はその事情を専攻教授会で説明するものとする。

(副論文)

第11条 副論文とは、学位申請者が参加した研究の成果を共同執筆した同種の公刊論文をいう(単著又は筆頭著者であることを問わない。)。申請者が筆頭著者として執筆し、著者自身が発表した国際会議論文なども含む。

(審査委員会)

第12条 細則第4条に規定する審査委員会は、申請者の指導教員を含めて選出された3人以上(専攻教授会構成員の3人を含む。)の委員によって構成する。ただし、必要があるときは、学位論文の審査等に当たって、徳島大学大学院の担当教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等の協力(審査委員に加わることを含む。)を求めることができる。

- 2 審査委員会に審査委員主査(以下「主査」という。)を置き、主査は審査委員会の総括を行う。
- 3 審査委員会委員の選出は、投票によるものとする。ただし、主査に指導教員を選出することはできない。

(学位論文の公聴会)

第13条 論文審査の段階において、審査委員会は、学位論文の公聴会を開催するものとする。

2 主査は、学位論文の公聴会の開催日を、原則として開催日の1週間前までに申請者に通知するとともに、関係教室等への掲示をもって公示するものとする。

(最終試験)

第14条 細則第5条第1項の最終試験は、口頭による専門科目試験とする。

(単位修得退学者の取扱い)

第15条 本研究科博士後期課程に所定の年限以上在学し、所定の単位を修得後退学した者は、退学後3年以内であれば課程修了による学位審査を受けることができる。

第3章 論文提出による学位審査

(論文提出による予備審査)

第16条 細則第8条第1項に規定する論文提出による学位審査を申請しようとする者は、細則第9条の規定により、あらかじめ専攻教授会による予備審査を受け、承認を得るものとする。

(紹介委員)

第17条 申請者は、論文内容に関連ある研究分野の専攻研究指導教員を紹介委員として選ぶものとする。

(論文提出による予備審査の申請書類)

第18条 論文の予備審査を申請する者は、紹介委員の承認を得て、次の各号に掲げる書類を専攻長に提出するものとする。ただし、第2号及び第3号の書類については、予備審査委員会の委員(審査協力者を含む。)が3人を超える場合は、その委員の数の部数とする。

- (1) 論文予備審査申請書(様式2) 1部
- (2) 学位論文の内容梗概(50ページ程度) 3部
- (3) 参考論文(学術雑誌に投稿中のものは、その原稿の写し各3部
- (4) 履歴書
- (5) 最終学歴の卒業又は修了証明書

(論文提出による予備審査の申請時期)

第19条 予備審査の申請時期は、予定されている学位論文提出時期の3月以前とする。

(論文提出による予備審査の付託)

第20条 予備審査の申請があったときは、専攻長は専攻教授会に付議し、申請者ごとに論文予備審査委員会を組織し、学位論文の審査の請求に値するか否かを決定するための予備審査を付託する。

(論文予備審査委員会)

第21条 論文予備審査委員会は、専攻の研究指導教員のうちから、紹介委員を含めて選出された3人以上の委員によって構成する。ただし、必要があるときは、徳島大学大学院の担当教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等の協力(論文予備審査委員に加わることを含む。)を求めることができる。

2 前項の委員の選出は、投票によるものとする。

3 論文予備審査委員会に委員の互選による委員長を置き、委員長は論文予備審査委員会の総括を行う。

4 論文予備審査委員会は、予備審査を付託された日から1月以内に、学位論文の審査の請求に値するか否かを決定し、委員長はその結果を専攻教授会に報告する。

(論文予備審査の議決と結果の通知)

第22条 専攻教授会は、論文予備審査委員会委員長の報告に基づき、学位論文の審査の請求に値するか否かを審議の上議決し、その結果を速やかに申請者に通知する。

(論文提出による学位論文の提出時期)

第23条 論文提出による学位論文を提出する時期は、毎年4月又は10月の指定の期日までとする。

(論文提出による博士論文の提出書類)

第24条 細則第8条第2項第1号に該当する者については、細則第9条に規定する書類等のうち第10号及び第11号の書類の提出を要しないものとする。

(論文提出による参考論文)

第25条 細則第9条第8号の参考論文とは、申請者によって執筆され、学位論文の主要な内容が記述された公刊論文又は

公刊されることが証明された論文原稿をいう。

2 前項の参考論文には、原則として、学位申請者が主として寄与した研究成果を申請者自身が執筆し、権威ある学術雑誌に投稿して査読の結果受理された主論文が3報以上あることを必要とする。

3 公刊論文として、さらに数編程度の副論文があることが望ましい。

4 主論文が学位申請者を含む複数の著者によって執筆された共著論文の場合には、その論文の成果が主として学位申請者が寄与したものであり、主要部分が申請者によって執筆されたものであることを、すべての共著者が署名捺印の上証明する細則第9条第9号の共著者の承諾書の提出を必要とする。

5 主論文及び副論文については、それぞれ第10条及び第11条の規定を準用する。

(論文審査委員会)

第26条 細則第10条に規定する論文審査委員会は、紹介委員を含めて選出された3人以上(専攻教授会構成員の3人を含む。)の委員によって構成する。ただし、必要があるときは、学位論文の審査に当たって、徳島大学大学院の担当教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等の協力(論文審査委員に加わることを含む。)を求めることができる。

2 審査委員会に審査委員主査(以下「主査」という。)を置き、主査は審査委員会の総括を行う。

3 審査委員会委員の選出は、投票によるものとする。ただし、主査に指導教員を選出することはできない。

(論文提出による学位論文の公聴会)

第27条 論文審査の段階において、論文審査委員会は、学位論文の公聴会を開催するものとする。

2 主査は、学位論文の公聴会の開催日を、原則として開催日の1週間前までに申請者に通知するとともに、関係教室等への掲示をもって公示するものとする。

(試問)

第28条 細則第11条第1項の試問は、専門科目については口頭で、外国語については筆答で行う。

2 外国語の試問は、英語について行う。

3 外国語の主論文又は申請者自身が発表した国際会議論文がある場合には、外国語の試問は免除する。

附 則

この内規は、令和4年4月1日から施行する。

様式 1

(和暦) 年 月 日

徳島大学大学院創成科学研究科長 殿

署 名

予 備 審 査 申 請 書

このたび、徳島大学大学院創成科学研究科の博士学位審査に関する内規第 2 条の規定に基づき、予備審査を実施くださるよう関係書類を添えて申請します。

(指導教員署名)

【注】 黒色のボールペンを使用し、自筆で署名すること。

様式 3

承 諾 確 認 書

(和暦) 年 月 日

徳島大学大学院創成科学研究科長 殿

指導教員署名

学位論文申請者氏名
博士論文題目「 _____ 」
共著論文
共著者名
(和暦) 年 月発行 ○○雑誌第○巻○号○○～○○ページに発表済

上記共著論文を _____ 氏が徳島大学に申請する博士の学位論文の参考論文（主論文）として使用することについて、全共著者から異議がないこと及び将来においても博士論文として他に使用しないことを確認しております。

また、同氏が提出する学位論文の本文全体を徳島大学機関リポジトリで公表することについて、以下のとおり確認しております。

承諾します。
 承諾しません。
(どちらかにチェックを入れてください)

(注)

- 1 学位規則により、平成 25 年 4 月以降に学位を授与される学位論文は、原則として当該博士の学位を授与する大学の機関リポジトリにより、その全文を公表することが定められています。
- 2 上記 1 の理由により、万が一チェックに不備がある場合は、学位論文の本文全体の機関リポジトリ公表に同意いただいたものと判断させていただきます。
- 3 雑誌発表に伴い共著論文の著作権が出版社等に移動している場合は、現著作権者の意向を尊重させていただきます。

様式 2

(和暦) 年 月 日

徳島大学大学院創成科学研究科長 殿

署 名

論 文 予 備 審 査 申 請 書

このたび、徳島大学大学院創成科学研究科の博士学位審査に関する内規第 16 条の規定に基づき、論文予備審査を実施くださるよう関係書類を添えて申請します。

(紹介委員署名)

【注】 黒色のボールペンを使用し、自筆で署名すること。

徳島大学大学院創成科学研究科学学位論文提出基準

課程博士	論文博士
<p>(参考論文)</p> <p>① 申請者によって執筆され、学位論文の主要な内容が記述された公刊論文又は公刊されることが証明された論文原稿をいう。</p> <p>② 原則として、学位申請者が主として寄与した研究成果を申請者自身が執筆し、権威ある学術雑誌に投稿して査読の結果受理された主論文が1報以上必要。</p> <p>③ 公刊論文として、さらに数編程度の副論文があることが望ましい。</p> <p>④ 主論文が学位申請者を含む複数の著者によって執筆された共著論文の場合には、その論文の成果が主として学位申請者が寄与したものであり、主要部分が申請者によって執筆されたものであることを、すべての共著者が署名捺印の上証明する承諾書の提出が必要。なお、指導教員が論文提出について共著者の承諾を得ている場合は、承諾確認書をもってこれに代えることができる。</p> <p>(主論文)</p> <p>⑤ 主論文は、学位申請者の単著又は筆頭著者であることが望ましいが、特別な事情によってそうでない場合には、承諾書(その論文の成果が主として学位申請者が寄与したものであり、主要部分が申請者によって執筆されたものであることを、すべての共著者が署名捺印の上証明する書類)又は承諾確認書(指導教員が論文提出について共著者の承諾を得ていることを証明する書類)を提出させるとともに、審査委員はその事情を本研究科教授会で説明するものとする。</p> <p>(副論文)</p> <p>⑥ 副論文とは、学位申請者が参加した研究の成果を共同執筆した同種の公刊論文をいう(単著又は筆頭著者であることを問わない)。申請者が筆頭著者として執筆し、著者自身が発表した国際会議論文なども含む。</p> <p>⑦ 論文内容要旨 和文 1,200 字程度又は英文 600 語程度</p>	<p>(論文提出による参考論文)</p> <p>① 申請者によって執筆され、学位論文の主要な内容が記述された公刊論文又は公刊されることが証明された論文原稿をいう。</p> <p>② 原則として、学位申請者が主として寄与した研究成果を申請者自身が執筆し、権威ある学術雑誌に投稿して査読の結果受理された主論文が3報以上必要。</p> <p>③ 公刊論文として、さらに数編程度の副論文があることが望ましい。</p> <p>④ 主論文が学位申請者を含む複数の著者によって執筆された共著論文の場合には、その論文の成果が主として学位申請者が寄与したものであり、主要部分が申請者によって執筆されたものであることを、すべての共著者が署名捺印の上証明する承諾書の提出を必要とする。</p> <p>(論文提出による主論文及び副論文)</p> <p>⑤ 主論文及び副論文については、それぞれ課程博士の規定を準用する。</p> <p>⑥ 論文内容要旨 和文 1,200 字程度又は英文 600 語程度</p>

徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程において優れた研究業績を上げた者の期間短縮修了に関する要項

令和4年4月1日
大学院創成科学研究科長制定

(目的)

第1条 この要項は、徳島大学大学院学則第12条第1項ただし書の規定に基づく、徳島大学大学院創成科学研究科（以下「研究科」という。）博士後期課程における優れた業績を上げた者の修了年限短縮の認定に関し、必要な事項を次のとおり定める。

(認定申請の時期)

第2条 認定申請を行う時期は、徳島大学大学院創成科学研究科の博士学位審査に関する内規（以下「内規」という。）第4条に定める学位論文予備審査の申請の1か月前までとする。

(認定の基準)

第3条 期間短縮修了の認定は、申請者の研究業績が優れており、権威ある学術雑誌に投稿し、査読の結果受理された主論文が3編以上あり、かつ、次の各号の一に該当する場合に行うことができる。

- (1) 学生自身が発表した、又は発表予定の国際会議論文があること。
- (2) 学会から本人自身の研究に対して論文賞などを受賞していること。
- (3) 共同研究プロジェクト等に貢献していること。
- (4) 学会活動等での顕著な活動が認められていること。
- (5) 日本学術振興会特別研究員に採用され、又は採用予定であること。
- (6) その他、顕著な研究業績を上げていること。

(認定の手続)

第4条 期間短縮修了を希望する者は、期間短縮修了希望願書（別紙様式1）により、所属する学位プログラム長に願い出るものとする。学位プログラム長は、申請者が前条に定める基準を満たしている場合、期間短縮修了者推薦書（別紙様式2）に内規第3条第2号及び第3号に定める書類を添付し、創成科学専攻長（以下「専攻長」という。）に推薦するものとする。

2 専攻長は、前項の推薦を受けた場合は、その旨を研究科長に報告する。

(認定審査の付託)

第5条 専攻長は、前条の申請を受理したときは、当該申請に係る認定審査を教務委員会に付託する。

(審査委員会の設置)

第6条 教務委員会は、前条の付託を受けたときは、第3条に規定する優れた研究業績を上げた者の認定に関し、審査委員会を設置する。

(審査委員会の組織)

第7条 審査委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務委員会委員長
 - (2) 教務委員会副委員長
 - (3) 当該申請のあった学位プログラムの教務委員会委員 1名
- 2 審査委員会に委員長を置き、その選出は委員の互選とする。
- 3 委員長は、第1項の委員以外の者の出席を求め、意見を聞

くことができる。

(審査結果の決定)

第8条 教務委員会は、審査委員会の結論に基づき審議し、認定の可否について専攻長に報告する。

2 専攻長は、前項の報告に基づき、第3条に規定する優れた研究業績を上げた者の認定の可否を決定し、その旨を研究科長に報告する。

3 専攻長は、前項の認定を可決された者に対し、博士論文予備審査の申請を許可する。

(疑義解釈)

第9条 この要項の実施に関し、疑義が生じた場合は、教務委員会において解釈する。

(要項の改廃)

第10条 この要項の改廃は、教務委員会及び創成科学専攻教授会の議を経なければならない。

附 則

この要項は、令和4年4月1日から実施する。

(別紙様式1)

(和暦) 年 月 日		
期間短縮修了希望願書		
大学院創成科学研究科長 殿		
所 属	学位プログラム 年次	
署 名		
私は、徳島大学大学院学則第12条第1項ただし書きによる修了を希望します。		

(別紙様式2)

(和暦) 年 月 日		
期間短縮修了者推薦書		
大学院創成科学研究科長 殿		
学位プログラム長		
所 属		
署 名		
指導教員	所 属	署 名
下記の者は、徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程において優れた研究業績を上げた者の期間短縮修了に関する要項第3条に規定する認定基準を満たしていると認め、同要項第4条の規定に基づき、認定くださるよう申請します。		
記		
入 学 時 期	所 属	氏 名
(和暦) 年 月	学位プログラム 年次	
推 薦 理 由		

徳島大学大学院創成科学研究科における長期にわたる教育課程の履修に関する規則

令和2年4月1日
大学院創成科学研究科長制定

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第9条の4第2項の規定に基づき、徳島大学大学院創成科学研究科（以下「研究科」という。）における長期にわたる教育課程の履修（以下「長期履修」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(資格)

第2条 標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修できる者（以下「長期履修学生」という。）は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 職業を有する者で、かつ、所属長の承諾を得た者
- (2) 研究科長の許可を得て、研究科創成科学専攻、地域創成専攻、臨床心理学専攻、理工学専攻及び生物資源学専攻（以下「各専攻」という。）が別に定める者

2 前項の規定にかかわらず、在学期間が1年を超える者は、次条に定める申請をすることができない。

(申請手続)

第3条 長期履修を希望する者は、各専攻が別に定める申請書を次の各号に定める日までに学長に提出し、その許可を得なければならない。

- (1) 新入生は、入学手続き日
- (2) 在學生は、2月末日（10月入学にあつては8月末日）

(審査手続)

第4条 研究科長は、長期履修を希望する者がある場合は、各専攻の長に審査を付託する。

2 各専攻の長は、各専攻で定める委員会において審査し、各専攻教授会の議を経て、研究科長に報告の上、学長に申請するものとする。

(長期履修の期間)

第5条 長期履修を許可する期間は、大学院学則第5条に規定する在学年限を限度とする。

2 長期履修学生が在学中、長期履修学生として認められた期間の変更を希望する場合は、各専攻で定める申請書により、学長に願い出て、その許可を得なければならない。

(教育課程の編成)

第6条 長期履修学生に係る教育課程の編成は、研究科長が定めた履修基準を弾力的に運用するものとし、長期履修学生に限定した教育課程の編成は行わないものとする。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、長期履修に関し必要な事項は、各専攻の長が別に定める。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻における長期にわたる教育課程の履修に関する細則

令和4年4月1日
大学院創成科学研究科創成科学専攻長制定

(目的)

1 この細則は、徳島大学大学院創成科学研究科における長期にわたる教育課程の履修に関する規則(以下「規則」という。)第7条の規定に基づき、徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻(以下「専攻」という。)における長期にわたる教育課程の履修(以下「長期履修」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(資格)

2 規則第2条第1項第1号の規定による職業を有する者とは、申請時において正規職員として勤務している者または勤務する予定の者とする。

3 規則第2条第1項第2号の規定による各専攻が別に定める者とは、次のとおりとする。

- (1) 国際連携大学院プログラムの学生
- (2) その他専攻長が特に必要と認めたる者

(申請手続)

4 規則第3条の規定により長期履修を希望する者は、長期履修計画申請書(別紙様式1)を提出するものとする。

(審査手続)

5 規則第4条の規定による審査は、所属学位プログラムの教務委員及び指導教員が申請書類及び面接により審査し、審査結果を教務委員会にて審議するものとする。

ただし、所属学位プログラムの教務委員及び指導教員が同一の場合は、指導教員に代わって所属学位プログラムの他の教員が行うものとする。

(長期履修の期間)

6 長期履修学生が規則第5条第2項に規定する期間の変更を希望する場合、長期履修期間変更願(別紙様式2)を提出し、原則として変更する6か月前までに学長の許可を受けるものとする。審査手続については、前項の規定を準用する。なお、期間の変更は短縮のみとし、延長については認めないものとする。

附 則

この細則は、令和4年4月1日から実施する。

(別紙様式1)

徳島大学大学院長期履修計画申請書		教務委員 指導教員
		(和暦) 年 月 日願出
徳島大学長 殿		学生番号 <input style="width: 100px;" type="text"/>
		大学院創成科学研究科創成科学専攻 学位プログラム
		(和暦) 年度入学 学年
		署名 _____

次のとおり標準修業年限を超えて長期に履修したいので、申請します。

長期履修計画	1年目		2年目		3年目		4年目		5年目		6年目	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
①履修期間 4年												
②履修期間 5年												
③履修期間 6年												

※希望する履修期間に○を付し、その期間内の各期に○(全部受講できる)、△(一部受講できる)、×(受講できない)で計画を記入すること。

長期に履修しなければならない理由(詳細に)
.....
.....
.....

勤務先	企業等名			部課等名		
	所在地	〒 - TEL () -				
	在職期間	年 月				
	所属長の承認	役職名			氏名	印

(別紙様式2)

徳島大学大学院長期履修期間変更願		教務委員 指導教員
		(和暦) 年 月 日願出
徳島大学長 殿		学生番号 <input style="width: 100px;" type="text"/>
		大学院創成科学研究科創成科学専攻 学位プログラム
		(和暦) 年度入学 学年
		署名 _____

次のとおり長期履修期間を「(和暦) 年 月から(和暦) 年 月」から「(和暦) 年 月から(和暦) 年 月」に変更(短縮)したいので、申請します。

長期履修計画	1年目		2年目		3年目		4年目		5年目		6年目	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(変更前) 履修計画												
(変更後) 履修計画												

※変更前及び変更後の履修計画を記入すること。各期に○(全部受講できる)、△(一部受講できる)、×(受講できない)で記入すること。

長期履修期間を変更する理由(詳細に)
.....
.....
.....

徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻学生 の他研究科の授業科目履修に関する実施細則

令和4年4月1日
大学院創成科学研究科創成科学専攻長制定

(趣旨)

第1条 この細則は、徳島大学大学院創成科学研究科規則第6条第3項の規定に基づき、創成科学研究科創成科学専攻の学生が本学大学院の他研究科の授業科目を履修する際に必要な事項を定めるものとする。

(履修の願出)

第2条 他研究科の授業科目を履修しようとする者は、所属する学位プログラムの教務委員、指導教員及び受講希望科目の授業担当教員の承認を得て、学年暦に定める前期又は後期の授業開始日以後1週間以内に別紙様式を常三島事務部各事務課学務係に提出しなければならない。

(履修の承認及び許可)

第3条 前条に規定する願出のあった授業科目については、教務委員会においてその必要性を考慮の上、履修を承認するものとする。

2 前項の委員会において、履修を承認された者については、創成科学専攻長が当該授業科目を開設している研究科長と協議の上、履修を許可するものとする。

(履修の中断)

第4条 前条により履修の許可を得た授業科目については、正当な理由がなければ履修を中断することはできない。

(単位の認定)

第5条 この細則により修得した単位は、自由科目の単位として認定する。

附 則

この細則は、令和4年4月1日から施行する。

別紙様式

教務委員	
指導教員	

他研究科授業科目履修願

(和暦) 年 月 日

徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻長 殿

大学院創成科学研究科創成科学専攻
学位プログラム
第 年次

署名 _____

学生番号

徳島大学大学院創成科学研究科規則第6条第3項の規定に基づき、他研究科で開設する下記の授業科目を受講したいので願出します。

記

研究科名	授業科目名	前期・後期の別	単位数	授業担当教員氏名

上記授業科目を履修する必要性

徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻における成績評価等の申立てに関する申合せ

令和4年4月1日
教務委員会 制定

(申立てについて)

- 1 徳島大学大学院創成科学研究科創成科学専攻の学生は、自身の成績評価等に疑義がある場合、申立てをすることができる。
- 2 申立ては、原則として成績が公開された学期の末月15日までにすることができる。ただし、申立て可能な最終日が休業日の場合、休業日が明けた平日までとする。また、当該学期末に修了を予定する者に係る期限は、学位論文提出期限日までとする。

(申立てへの対応について)

成績評価の正確性を担保するため、成績評価等に関して学生から申立てがあった場合は、次の手順により対応する。

- 1 授業担当教員又は学務係による受付および訂正
成績評価等について疑義がある場合、学生は授業担当教員又は学務係に申し出る。授業担当教員は、学生の成績判定に用いた資料、学務係へ提出した成績資料、学生の成績簿の確認を行い、ミス等がある場合は、成績記入用紙（追加・訂正）（以下「別紙様式」という。）に理由及び訂正事項を記録し、学務係に提出する。
- 2 学位プログラム教務委員会による相談および調停
成績評価等の疑義に関する問題が、前項による方法で解決しない場合、学生は成績評価についての疑義申立書（以下「疑義申立書」という。）を、学務係を通じて学位プログラムの教務委員会に提出し、当該委員会が相談と調停を行う。ただし、学位プログラムの教務委員会が授業担当教員である場合は学位プログラム長等がこれを代行する。疑義申立書の提出を受けた教員（教務委員等）は、必要に応じて授業担当教員と学生の双方から事情を聴取した上で対応方針を決定し、解決を図る。
- 3 教務委員会における審議・決定
成績評価等の疑義に関する問題が、前2項による方法で解決しない場合、教務委員は教務委員長に疑義申立書を基に経緯等を説明し、必要に応じて教務委員会において審議するものとする。成績の訂正等の措置が必要となった場合は、授業担当教員又は教務委員長が、別紙様式に理由及び訂正事項を記録し、学務係へ提出する。

附 則

この要項は、令和4年4月1日から実施する。

(和暦) 年 月 日					
成績評価についての疑義申立書					
創成科学専攻教務委員 殿					
創成科学研究科創成科学専攻					
学位プログラム 年次					
学生番号 _____					
氏 名 _____					
(連絡先)					
1. 疑義申し立て科目					
開講 研究科等	開講期	曜日	時間割コード	科目名	担当教員
2. 疑義申し立てをする理由（該当番号を○で囲み、疑義申し立ての内容を具体的に 詳細に記入すること）					
1) 成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りと思われるため					
2) シラバスや授業時間内での指示等により周知している成績評価の方法から、 明らかに逸脱した評価であると思われるため					
(具体的内容)					

気象警報が発表された場合の授業の休講措置に関する申し合わせ

台風等により、気象警報等が徳島県徳島市に発表された場合の徳島大学における授業の休講措置は、次のとおりとする。

- 1 昼間に開講する授業については、午前7時に「暴風警報と大雨警報」、「暴風警報と洪水警報」、「大雪警報」（以下「警報」という。）又は特別警報（波浪特別警報を除く。以下同じ。）が発表中の場合は、午前の授業を休講とする。午前11時に警報又は特別警報が発表中の場合は、午後の授業を休講とする。
- 2 夜間に開講する授業については、午後4時に警報又は特別警報が発表中の場合は、すべて授業を休講とする。
- 3 授業開始後に警報が発表された場合は、次の時限以降の授業を休講とする。ただし、特別警報が発表された場合は、直ちに休講とする。
- 4 前3項に定める以外の場合又は特別な事情がある場合は、学部にあつては各学部長（教養教育にあつては教養教育院長）、大学院にあつては各教育部長（以下「各学部長等」という。）が措置を決定する。
- 5 第1項から第4項までの措置により、休講となった授業の補講については、各学部長等が別に定める。
- 6 この申し合わせに定めるもののほか、授業の休講措置に関し必要な事項は、各学部長等が別に定める。

附 則

この申し合わせは、平成25年9月18日から実施する。

附 則

この申し合わせは、平成28年4月1日から実施する。

徳島大学休学許可の基準に関する申し合わせ

平成25年7月17日

大学教育委員会承認

- 1 この申し合わせは、学生の休学を制限するものではなく、学生にとってわかりやすい仕組みにすることを目的としている。そのため、学生への制度の周知に際して、2(1)~(10)の例示以外の理由であっても指導教員等に相談するよう促すなど、適切に周知するものとする。
- 2 徳島大学学則第23条及び徳島大学大学院学則第23条の規定に基づく休学の許可について、次の各号のいずれかに該当し、2月以上就学できない者について休学を許可するものとする。
 - (1) 疾病又は負傷（医師の診断書）
 - (2) 学資の支弁が困難な場合（理由書）
 - (3) 災害等により修学困難と認められた場合（罹災証明書）
 - (4) 海外の教育・研究施設において修学する場合（受入先の証明書（写））
 - (5) 自主的な海外留学や長期海外生活体験のための休学（理由書及び指導教員等の意見書）
 - (6) 大学院における研究を継続するために必要な期間の休学（理由書及び指導教員等の意見書）
 - (7) 勤務の都合（理由書）
（夜間主コース及び大学院各教育部の学生のみを対象とする。）
 - (8) 出産又は育児に従事する場合（母子健康手帳の写し等）
 - (9) 家族の看病又は介護をする場合（理由書）
 - (10) 公共的な事業に参加する場合（受入先の証明書（写））
 - (11) 医学部医学科の学生であつて、徳島大学大学院学則第18条第3項第7号に該当する者が、大学院医科学教育部の博士課程に入学するとき
 - (12) その他、上記以外の理由により休学を希望する学生が、指導教員等と相談の上、教授会においてやむを得ない理由であると認められた場合（理由書及び指導教員等の意見書）
- 3 2(12)に示す「その他の理由」により休学の願い出があつたとき、指導教員等はその内容に応じて学生の就学状況や学業成績、目的意識や心構えなどについて聴取して意見書を作成し、休学させても差し支えないと教授会で判断した場合は、必要に応じて指導を行った上で休学を認めることができるものとする。
- 4 入学前の休学手続きによる4月1日又は10月1日からの休学は、次の各号のいずれかに該当する場合を除き認めないものとする。
 - (1) 疾病又は負傷（医師の診断書）
 - (2) 災害等により修学困難と認められた場合（罹災証明書）
 - (3) 勤務の都合（理由書）
（夜間主コース及び大学院各教育部の学生のみを対象とする。）
- 5 学生から提出のあつた理由書、診断書、各種証明書（写）等については、学長の許可を得る目的にのみ使用し、その取扱いについては細心の注意を払い、適正な管理と保護に努めるものとする。
- 6 休学の許可は、学部の教授会等で審議し、その内容を尊重して学長が決定する。
- 7 2の例示について、追加や削除の必要が生じたときは、大学教育委員会において審議し、決定する。

附 則

- 1 この申し合わせは、平成25年7月17日から施行する。
- 2 この申し合わせの施行日前に許可されている休学は、この申し合わせに定めるところにより許可されたものとみなす。

附 則

この申し合わせは、平成28年4月1日から実施する。

付 録

付 録

教員の一覧

【社会基盤システムプログラム】

研究指導教員			連絡先		
			研究室	内線	電話番号
准教授	青 矢 睦 月	Mutsuki Aoya	総科3号館南棟2階2S02	2333	088-656-7265
教 授	安 間 了	Ryo Anma	総科3号館南棟2階2S01	2340	088-656-7240
教 授	上 田 隆 雄	Takao Ueda	建設棟5階A502	5722	088-656-2153
准教授	上 野 勝 利	Katsutoshi Ueno	建設棟4階A402	4232	088-656-7342
教 授	小 川 宏 樹	Hiroki Ogawa	建設棟4階A406	5082	088-656-9193
教 授	奥 嶋 政 嗣	Masashi Okushima	総合研究実験棟6階603	4461	088-656-7340
助 教	金 井 純 子	Junko Kanai	建設棟4階A403	4253	088-656-7347
教 授	鎌 田 磨 人	Mahito Kamada	建設棟3階A306	5083	088-656-9134
准教授	河 口 洋 一	Yoichi Kawaguchi	建設棟3階A308	5084	088-656-9052
准教授	小田切 康 彦	Yasuhiko Kotagiri	総科1号館中棟1階3M23	3531	088-656-7187
教 授	上 月 康 則	Yasunori Kozuki	総合研究実験棟5階505	4470	088-656-7335
教 授	蔣 景 彩	Jing-Cai Jiang	建設棟3階A311	4252	088-656-7346
講 師	白 山 敦 子	Atsuko Shirayama	建設棟4階A401	4251	088-656-7345
教 授	高 橋 晋 一	Shinichi Takahashi	総科1号館南棟1階1S21	2232	088-656-7126
准教授	田 口 太 郎	Taro Taguchi	総科2号館2階E206	6620	088-656-2235
准教授	田 村 隆 雄	Takao Tamura	建設棟4階A414	4262	088-656-9407
准教授	内 藤 直 樹	Naoki Naito	総科1号館南棟1階1S28	3724	088-656-7141
准教授	中 田 成 智	Narutoshi Nakata	建設棟4階A404	4233	088-656-7343
准教授	西 山 賢 一	Kenichi Nishiyama	総科3号館南棟2階2S05	2330	088-656-7239
教 授	橋 本 親 典	Chikanori Hashimoto	建設棟5階A505	4241	088-656-7321
教 授	馬 場 俊 孝	Toshitaka Baba	建設棟4階A405	5082	088-656-9193
教 授	三 浦 哉	Hajime Miura	総科1号館中棟1階2M17	3805	088-656-7288
教 授	武 藤 裕 則	Yasunori Mutoh	建設棟4階A415	4221	088-656-7329
教 授	矢 部 拓 也	Takuya Yabe	総科1号館南棟1階1S23	2601	088-656-9311
講 師	山 中 亮 一	Ryoichi Yamanaka	総合研究実験棟5階504	4452	088-656-7334
准教授	山 本 哲 也	Tetsuya Yamamoto	総科3号館南棟3階3S04	7617	088-656-7617
准教授	横 谷 謙 次	Kenji Yokotani	総科3号館南棟3階3S01	2417	088-656-7204
准教授	渡 辺 公次郎	Kojiro Watanabe	総合研究実験棟6階606	7612	088-656-7612
准教授	渡 邊 健	Takeshi Watanabe	建設棟5階A506	4242	088-656-7320

【化学生命工学系プログラム】

研究指導教員			連絡先		
			研究室	内線	電話番号
教 授	浅 田 元 子	Chikako Asada	機械棟7階719	4992	088-656-9071
准教授	荒 川 幸 弘	Yukihiko Arakawa	化学・生物棟6階615	5616	088-656-9704
教 授	今 井 昭 二	Shoji Imai	総科3号館北棟2階2N06	3628	088-656-7273
准教授	上 野 雅 晴	Masaharu Ueno	総科3号館北棟2階2N04	3625	088-656-7251
教 授	宇 都 義 浩	Yoshihiro Uto	機械棟8階821	4906	088-656-7514
教 授	小笠原 正 道	Masamichi Ogasawara	総科3号館北棟2階2N01	2310	088-656-7244
教 授	岡 村 英 一	Hidekazu Okamura	化学・生物棟5階511	4521	088-656-9444
講 師	押 村 美 幸	Miyuki Oshimura	化学・生物棟 4 階408	4592	088-656-7404

教授	加藤 雅 裕	Masahiro Katoh	化学・生物棟3階307	4575	088-656-7429
准教授	岸 本 幸 治	Koji Kishimoto	機械棟8階817	5206	088-656-5206
准教授	白 井 昭 博	Akihiro Shirai	機械棟8階814	4915	088-656-7519
准教授	鈴 木 良 尚	Yoshihisa Suzuki	化学・生物棟5階509	4551	088-656-7415
教授	高 柳 俊 夫	Toshio Takayanagi	化学・生物棟6階611	5612	088-656-7409
准教授	田 端 厚 之	Atsushi Tabata	化学・生物棟7階709	4922	088-656-7521
准教授	玉 井 伸 岳	Nobutake Tamai	化学・生物棟6階604	4901	088-656-7520
准教授	友 安 俊 文	Toshifumi Tomoyasu	化学・生物棟7階708	4923	088-656-9213
講 師	西 内 優 騎	Masaki Nishiuchi	化学・生物棟 4 階409	4531	088-656-7400
准教授	平 田 章	Akira Hirata	総科3号館北棟3階3N02	2418	088-656-7261
准教授	平 野 朋 広	Tomohiro Hirano	化学・生物棟 4 階405	4542	088-656-7403
准教授	堀 河 俊 英	Toshihide Horikawa	化学・生物棟3階311	4572	088-656-7426
教授	真 壁 和 裕	Kazuhiro Makabe	総科1号館中棟1階1M18		
教授	松 木 均	Hitoshi Matsuki	化学・生物棟6階607	4900	088-656-7513
准教授	水 口 仁 志	Hitoshi Mizuguchi	化学・生物棟5階506	4511	088-656-7419
教授	南 川 慶 二	Keiji Minagawa	総科3号館南棟 3 階3S10	3102	088-656-7363
教授	三 好 徳 和	Norikazu Miyoshi	総科3号館北棟2階2N03	3623	088-656-7250
教授	三 好 弘 一	Hirokazu Miyoshi	放射線総合センター 1 階教授室		
准教授	村 井 啓一郎	Keichiroh Murai	機械棟3階305	4584	088-656-7424
教授	森 賀 俊 広	Toshihiro Moriga	機械棟6階603	4583	088-656-7423
准教授	八木下 史 敏	Fumitoshi Yagishita	化学・生物棟 4 階407	4541	088-656-7405
教授	安 澤 幹 人	Mikito Yasuzawa	化学・生物棟5階512	4513	088-656-7421
准教授	山 田 久 嗣	Hisatsugu Yamada	機械棟8階820	4907	088-656-7522
准教授	山 本 孝	Takashi Yamamoto	総科3号館北棟2階2N05	3655	088-656-7263
准教授	湯 浅 恵 造	Keizo Yuasa	化学・生物棟 4 階408	4592	088-656-7404
講 師	吉 田 健	Ken Yoshida	化学・生物棟5階510	4585	088-656-7669
教授	渡 部 稔	Minoru Watanabe	総科1号館中棟1階1M19	2321	088-656-7253

【機械科学系プログラム】

研究指導教員			連絡先		
			研究室	内線	電話番号
教授	石 田 徹	Tohru Ishida	機械棟3階321	4361	088-656-7379
教授	一 宮 昌 司	Masashi Ichimiya	機械棟5階520	4322	088-656-7368
准教授	大 石 昌 嗣	Masatsugu Oishi	機械棟5階519	4323	088-656-7367
教授	太 田 光 浩	Mitsuhiro Ohta	機械棟5階518	4321	088-656-7366
教授	岡 田 達 也	Tatsuya Okada	機械棟 6 階616	4382	088-656-7362
教授	木戸口 善 行	Yoshiyuki Kidoguchi	総合研究実験棟5階502	4450	088-656-9633
准教授	重 光 亨	Toru Shigemitsu	機械棟5階525	5219	088-656-9742
教授	高 岩 昌 弘	Masahiro Takaiwa	機械棟4階423	4352	088-656-7383
教授	高 木 均	Hitoshi Takagi	機械棟6階620	4313	088-656-7359
教授	出 口 祥 啓	Yoshihiro Deguchi	機械棟5階523	5214	088-656-7375
准教授	NAKAGAITO ANTONIO NORIO	NAKAGAITO ANTONIO NORIO	機械棟6階621	5313	088-656-7364
准教授	名 田 讓	Yuzuru Nada	総合研究実験棟5階503	4451	088-656-7370
教授	西 野 秀 郎	Hideo Nishino	機械棟 6 階618	4311	088-656-7357
教授	長谷崎 和 洋	Kazuhiro Hasezaki	機械棟5階521	4331	088-656-7373
教授	日 野 順 市	Junichi Hino	機械棟4階422	4353	088-656-7384
教授	松 本 健 志	Takeshi Matsumoto	機械棟5階522	4332	088-656-7374
准教授	三 輪 昌 史	Masafumi Miwa	機械棟4階420	4392	088-656-7387
教授	米 倉 大 介	Daisuke Yonekura	機械棟3階326	4386	088-656-9186

【電気電子物理科学系プログラム】

研究指導教員			連絡先		
			研究室	内線	電話番号
准教授	敖 金 平	Jimpin Ao	電気電子棟2階南A-8	4664	088-656-7442
講 師	芥 川 正 武	Masatake Akutagawa	電気電子棟3階北C-5	4644	088-656-7477
教 授	井 澤 健 一	Kenichi Izawa	総科3号館北棟1階1N05	2510	088-656-2510
准教授	犬 飼 宗 弘	Munehiro Inukai	建設棟2階A203	4763	088-656-7550
准教授	上 手 洋 子	Yohko Uwate	電気電子棟3階南D-8	7662	088-656-7662
准教授	榎 本 崇 宏	Takahiro Emoto	電気電子棟3階北C-6	4643	088-656-7476
准教授	大 野 恭 秀	Yasuhide Ohno	電気電子棟2階南A-3	4673	088-656-7439
准教授	折 戸 玲 子	Reiko Orito	総科3号館北棟1階1N03	3617	088-656-7237
講 師	川 上 烈 生	Retsuo Kawakami	電気電子棟2階南A-10	5511	088-656-7441
准教授	川 崎 祐	Yu Kawasaki	建設棟2階A217	4767	088-656-9878
教 授	川 田 昌 武	Masatake Kawada	電気電子棟2階北B-10	4633	088-656-7460
教 授	岸 本 豊	Yutaka Kishimoto	建設棟2階A202	4716	088-656-7548
教 授	久 保 智 裕	Tomohiro Kubo	電気電子棟3階北C-8	4692	088-656-7466
教 授	島 本 隆	Takashi Shimamoto	電気電子棟3階南D-5	4613	088-656-7483
教 授	下 村 直 行	Naoyuki Shimomura	電気電子棟2階北B-8	4621	088-656-7463
准教授	宋 天	Tian Song	電気電子棟3階南D-4	5105	088-656-7484
教 授	高 田 篤	Atsushi Takada	電気電子棟3階北C-3	4691	088-656-7465
准教授	寺 西 研 二	Kenji Teranishi	電気電子棟2階北B-7	4651	088-656-7454
准教授	富 田 卓 朗	Takuro Tomita	電気電子棟2階南A-1	5512	088-656-7445
教 授	直 井 美 貴	Yoshiki Naoi	電気電子棟2階南A-6	4672	088-656-7447
教 授	永 瀬 雅 夫	Masao Nagase	電気電子棟2階南A-2	5516	088-656-9716
教 授	中 村 浩 一	Koichi Nakamura	建設棟2階A216	5106	088-656-7577
教 授	西 尾 芳 文	Yoshifumi Nishio	電気電子棟3階南D-7	4615	088-656-7470
准教授	西 野 克 志	Katsushi Nishino	電気電子棟2階南A-5	4677	088-656-7464
講 師	久 田 旭 彦	Akihiko Hisada	総科3号館北棟1階1N06	2500	088-656-7231
教 授	伏 見 賢 一	Kenichi Fushimi	総科3号館北棟1階1N01	3618	088-656-7238
教 授	北 條 昌 秀	Masahide Hojo	電気電子棟2階北B-2	4623	088-656-7452
教 授	真 岸 孝 一	Koichi Magishi	総科3号館北棟1階1N09	2302	088-656-7230
教 授	安 野 卓	Takashi Yasuno	電気電子棟2階北B-5	4653	088-656-7458
准教授	四 柳 浩 之	Hiroyuki Yotsuyanagi	電気電子棟3階南D-3	4683	088-656-9183

【知能情報・数理科学系プログラム】

研究指導教員			連絡先		
			研究室	内線	電話番号
准教授	池 田 建 司	Kenji Ikeda	知能情報・南棟4階403	4726	088-656-7504
講 師	伊 藤 伸 一	Shinichi Itoh	知能情報・北棟2階204	4471	088-656-9858
教 授	上 田 哲 史	Tetsushi Ueta	情報センター・院生棟1階103	4753	088-656-7501
准教授	宇 野 剛 史	Takeshi Uno	総科1号館南棟2階2S08	3607	088-656-7294
准教授	大 沼 正 樹	Masaki Onuma	総科1号館南棟2階2S10	3603	088-656-7225
教 授	大 山 陽 介	Yosuke Ohyama	建設棟2階A220	4781	088-656-7541
教 授	小 野 公 輔	Kosuke Ono	総科1号館南棟2階2S05	3610	088-656-7218
講 師	カリガリ スティヴン ギンジ	Karungaru, Stephen Githinji	情報センター・院生棟8階801	4755	088-656-7488
教 授	木 下 和 彦	Kazuhiko Kinoshita	知能情報・南棟4階401	4712	088-656-7495
准教授	佐 野 雅 彦	Masahiko Sano	情報センター・院生棟5階503	4821	088-656-7559
教 授	獅々堀 正 幹	Masami Shishibori	知能情報・南棟5階508	4731	088-656-7508
講 師	白 根 竹 人	Taketo Shirane	総科1号館南棟2階2S19	2297	088-656-7295
教 授	高 橋 浩 樹	Hiroki Takahashi	建設棟2階A201	4762	088-656-7549

教授	竹内 敏己	Toshiki Takeuchi	建設棟2階A206	4771	088-656-7544
教授	寺田 賢治	Kenji Terada	情報センター・院生棟8階802	4721	088-656-7499
准教授	永田 裕一	Yuichi Nagata	知能情報・北棟1階102	4723	088-656-7505
教授	蓮沼 徹	Toru Hasunuma	総科1号館南棟2階2S23	2291	088-656-7216
教授	福見 稔	Minoru Fukumi	知能情報・北棟2階210	4733	088-656-7510
教授	泓田 正雄	Masao Fuketa	情報センター・院生棟6階604	4747	088-656-7564
教授	松浦 健二	Kenji Matsuura	情報センター・院生棟5階505	9804	088-656-9804
准教授	松本 和幸	Kazuyuki Matsumoto	総合研究実験棟7階703	4792	088-656-7654
准教授	水野 義紀	Yoshinori Mizuno	建設棟2階A204	4782	088-656-7542
准教授	光原 弘幸	Hiroyuki Mitsuvara	知能情報・南棟5階501	4751	088-656-7497
准教授	森田 和宏	Kazuhiro Morita	情報センター・院生棟6階603	4711	088-656-7490

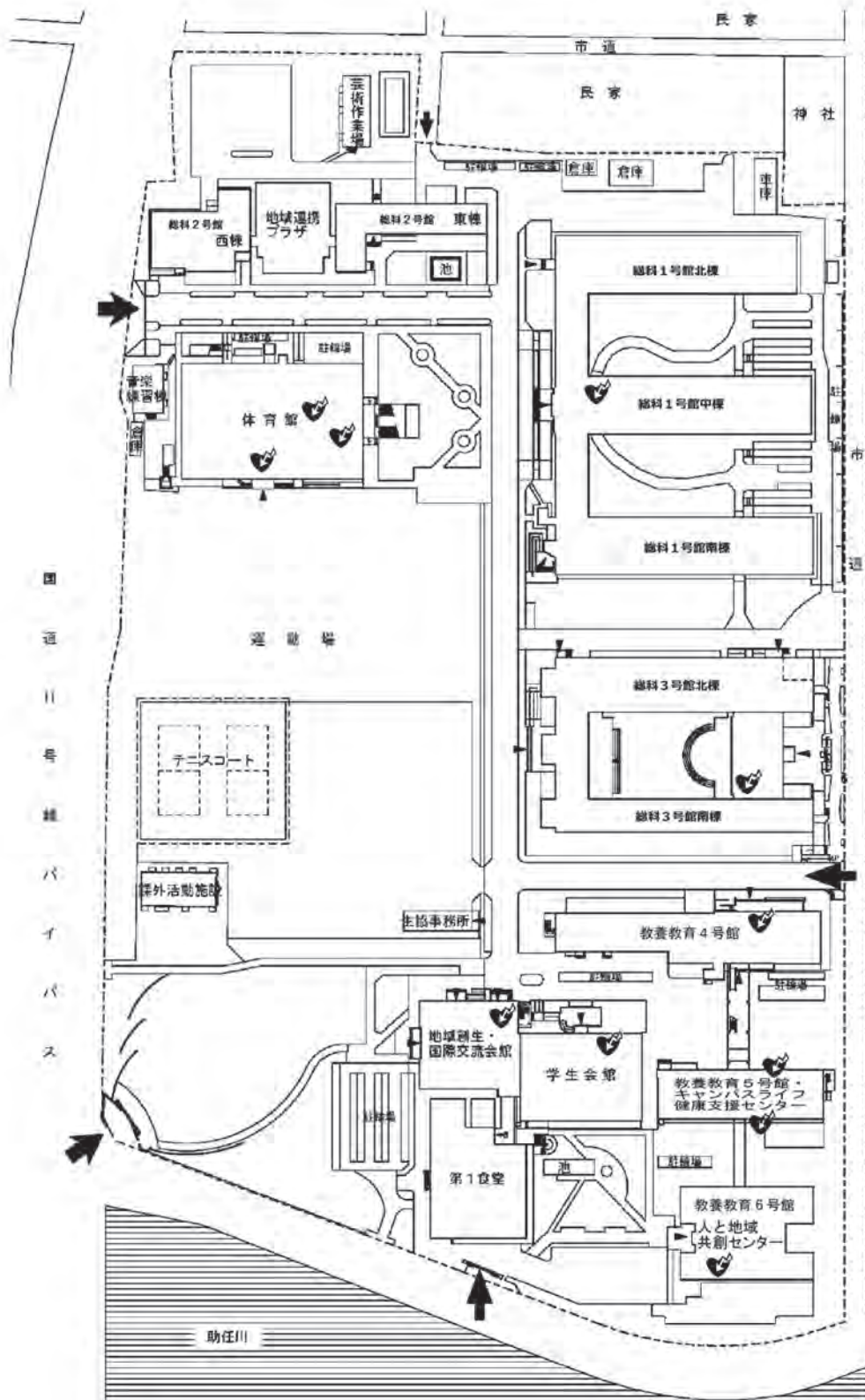
【生物資源学系プログラム】

研究指導教員			連絡先		
			研究室	内線	電話番号
准教授	赤松 徹也	Tetsuya Akamatsu	総科1号館1階1M15	4975	088-656-9918
教授	音井 威重	Takeshige Otoi	附属農場 農場事務・研究棟2階		088-635-0963
准教授	川上 竜巳	Ryushi Kawakami	総科3号館3階3N08	3660	088-656-7247
教授	櫻谷 英治	Eiji Sakuradani	化学生物棟8階803	4932	088-656-7528
准教授	佐々木 千鶴	Chizuru Sasaki	総科1号館1階1M13	4940	088-656-7532
准教授	佐藤 征弥	Masaya Satoh	総科3号館3階3N03	3630	088-656-7222
教授	田井 章博	Akihiro Tai	化学生物棟7階710	4927	088-656-7526
教授	竹本 龍也	Tatsuya Takemoto	先端酵素学研究所B棟3F発生物学分野	9160	088-633-9160
教授	田中 保	Tamotsu Tanaka	総合科学部3号館3階3N06	2411	088-656-7256
教授	中澤 慶久	Yoshihisa Nakazawa	サテライトベンチャービジネスラボ4階	5205	088-656-9913
教授	服部 武文	Takefumi Hattori	新野キャンパス		0884-49-1102
講師	平田 真樹	Maki Hirata	附属農場 農場事務・研究棟2階		088-635-8405
准教授	三戸 太郎	Taro Mito	附属農場 農場事務・研究棟1階		088-635-3012
准教授	向井 理恵	Rie Mukai	化学生物棟8階822	4974	088-656-9917
教授	森松 文毅	Fumiki Morimatsu	附属農場 農場事務・研究棟2階		088-635-8406
准教授	山城 考	Tadashi Yamashiro	総科1号館1階1M20	2412	088-656-7257
准教授	山本 圭	Kei Yamamoto	化学生物棟8階820	4973	088-656-9916

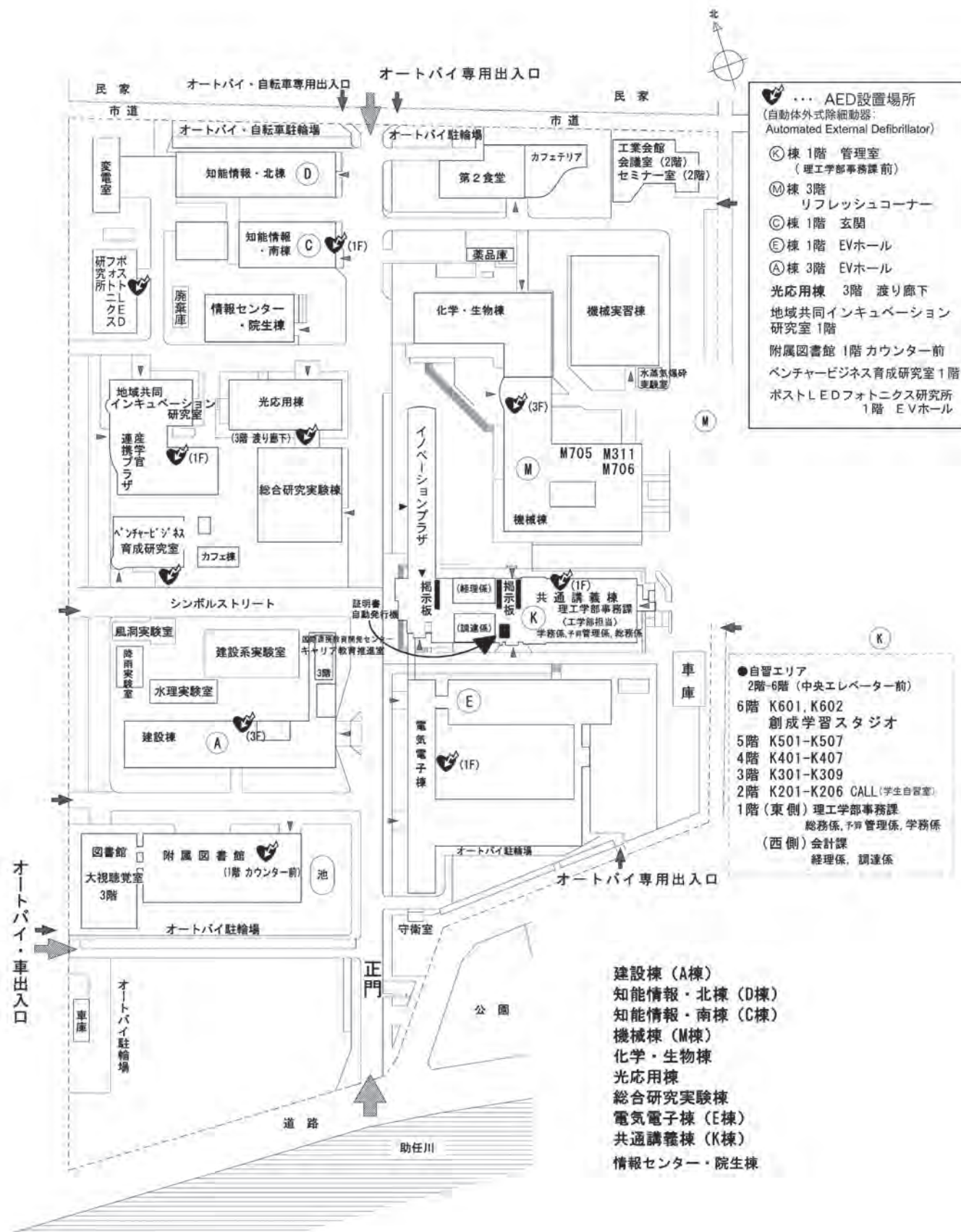
【光科学系プログラム】

研究指導教員			連絡先		
			研究室	内線	電話番号
准教授	岡本 敏弘	Toshihiro Okamoto	光応用棟2階208	5003	088-656-9412
准教授	岸川 博紀	Hiroki Kishikawa	光応用棟4階408	5019	088-656-9418
准教授	久世 直也	Naoya Kuse	ポストLEDフォトリクス研究所2階教員室	4505	088-656-8027
准教授	KOINKAR PANKAJ MADHUKAR	Koinkar Pankaj Madhukar	総合研究実験棟4階402	4440	088-656-9563
准教授	永松 謙太郎	Kentaro Nagamatsu	ポストLEDフォトリクス研究所2階教員室	4501	088-656-8025
教授	原口 雅宣	Masanobu Haraguchi	ポストLEDフォトリクス研究所4階406	5002	088-656-9411
教授	藤方 潤一	Junichi Fujikata	光応用棟4階407	5010	088-656-9415
教授	古部 昭広	Akihiro Furube	総合研究実験棟4階404	4442	088-656-7538
准教授	南川 丈夫	Takeo Minamikawa	機械棟3階319	5314	088-656-7381
教授	安井 武史	Takeshi Yasui	機械棟3階317	4401	088-656-7377
准教授	柳谷 伸一郎	Shinichiro Yanagiya	光応用棟3階310	5011	088-656-9416
准教授	矢野 隆章	Takaaki Yano	ポストLEDフォトリクス研究所1階教員室	4502	088-656-8026
准教授	山口 堅三	Kenzo Yamaguchi	ポストLEDフォトリクス研究所2階教員室	4505	088-656-8027
教授	山本 健詞	Kenji Yamamoto	光応用棟4階409	5029	088-656-9425

講義室等配置図



- ... AED設置場所
(自動体外式除細動器:
Automated External Defibrillator)
- 総科1号館玄関
- 総科3号館1階東側
- 人と地域共創センター1階
- 教養教育4号館1階
- 教養教育5号館2階
- 体育館第一体育場入口
- 体育館1階第二体育場入口
- 体育館1階柔剣道場
- 地域創生・国際交流会館3階
- 学生会館1階



- AED設置場所
 (自動体外式除細動器:
 Automated External Defibrillator)
- ◎棟 1階 管理室
(理工学部事務課前)
 - ◎棟 3階
リフレッシュコーナー
 - ◎棟 1階 玄関
 - ◎棟 1階 EVホール
 - ◎棟 3階 EVホール
 - ◎棟 3階 光応用棟 3階 渡り廊下
地域共同インキュベーション
研究室 1階
 - ◎棟 1階 付属図書館 1階 カウンター前
 - ◎棟 1階 ペンチャービジネス育成研究室 1階
 - ◎棟 1階 ポストLEDフォトリクス研究所
1階 EVホール

- 自習エリア
 2階-6階 (中央エレベーター前)
- 6階 K601, K602
創成学習スタジオ
 - 5階 K501-K507
 - 4階 K401-K407
 - 3階 K301-K309
 - 2階 K201-K206 CALL (学生自習室)
 - 1階 (東側) 理工学部事務課
総務係, 予算管理係, 学務係
 - (西側) 会計課
経理係, 調達係

- 建設棟 (A棟)
- 知能情報・北棟 (D棟)
- 知能情報・南棟 (C棟)
- 機械棟 (M棟)
- 化学・生物棟
- 光応用棟
- 総合研究実験棟
- 電気電子棟 (E棟)
- 共通講義棟 (K棟)
- 情報センター・院生棟

1 年次前期

提出日 令和 年 月 日

Registration of Course Subjects
大学院創成科学研究科博士後期課程

履 修 登 録 届

Student Number

学 生 番 号 _____

Name

氏 名 _____

tel・e-mail address

携帯電話・メールアドレス等

「学位プログラム特別研究」必修6単位を下記のとおり履修しますので、届け出ます。

記

1. 選択する学位プログラム

※記載後は、学位別に次の事務部へ提出してください。

「学術」総合科学部, 「工学」理工学部, 「農学」生物資源産業学部

1 年次後期

提出日 令和 年 月 日

Registration of Course Subjects
大学院創成科学研究科博士後期課程
履 修 登 録 届

Student Number

学生番号 _____

Name

氏 名 _____

tel・e-mail address

携帯電話・メールアドレス等

「創成科学特別演習」必修2単位を下記のとおり履修しますので、届け出ます。

記

1. 学位プログラム

2. 研究指導クラスター

3. 主たる担当教員

3-1. 副研究指導教員（研究指導クラスター教員（学位プログラム外教員））

教員氏名 _____

所属学位プログラム： _____

3-2. 研究指導クラスター教員（学位プログラム外教員）

教員氏名 _____

所属学位プログラム： _____

3-3. 研究指導クラスター教員（学位プログラム外教員）

教員氏名 _____

所属学位プログラム： _____

【学位プログラム名一覧】

- ・社会基盤システムプログラム
- ・生物資源学系プログラム
- ・光科学系プログラム
- ・化学生命工学系プログラム
- ・機械科学系プログラム
- ・電気電子物理科学系プログラム
- ・知能情報・数理科学系プログラム

※記載後は、学位別に次の事務部へ提出してください。

「学術」総合科学部、「工学」理工学部、「農学」生物資源産業学部

2年次後期

提出日 令和 年 月 日

Registration of Course Subjects
大学院創成科学研究科博士後期課程
履 修 登 録 届

Student Number

学生番号 _____

Name

氏 名 _____

tel・e-mail address

携帯電話・メールアドレス等

「創成科学特別研究」必修2単位を下記のとおり履修しますので、届け出ます。

記

1. 学位プログラム（社会基盤システムの場合は、取得予定学位も併記）
2. 研究指導クラスター
3. 副研究指導教員（研究指導クラスター教員（学位プログラム外教員））

教員氏名 _____

所属学位プログラム： _____

【学位プログラム名一覧】

- ・社会基盤システムプログラム
- ・光科学系プログラム
- ・機械科学系プログラム
- ・知能情報・数理科学系プログラム
- ・生物資源学系プログラム
- ・化学生命工学系プログラム
- ・電気電子物理科学系プログラム

※記載後は、学位別に次の事務部へ提出してください。

「学術」総合科学部、「工学」理工学部、「農学」生物資源産業学部

提出日 令和 年 月 日

Registration of Course Subjects
大学院創成科学研究科博士後期課程
履 修 登 録 届

Student Number

学 生 番 号 _____

Name

氏 名 _____

tel・e-mail address

携帯電話・メールアドレス等

研究科共通選択科目について下記のとおり履修しますので、届け出ます。

記

選択科目名	時間割コード	担当教員 (押印または署名)

※記載後は、学位別に次の事務部へ提出してください。

「学術」総合科学部, 「工学」理工学部, 「農学」生物資源産業学部

